

The Liberal Arts

The Liberal Arts

The Liberal Arts

2010～2011年度慶應義塾大学教養研究センター基盤研究報告書

慶應義塾大学の教育カリキュラム研究

——「2010年度大学カリキュラム研究に関する教員アンケート調査」
の結果とそれに基づく提言——

2010 ～ 2011 年度慶應義塾大学教養研究センター基盤研究報告書

慶應義塾大学の教育カリキュラム研究
「2010 年度大学カリキュラムに関する教員アンケート調査」
の結果とそれに基づく提言

慶應義塾大学教養研究センター

はじめに ――学び方のすすめ

教養研究センター所長 不破有理

大学教育で達成すべき能力として「学士力」や「就業力」など、さまざまな造語が増殖されている。このような状況に違和感を抱く人も多いのではないだろうか。学力を点数のみで計ることへの抵抗感を慮り、このような表現が用いられるようになったのかもしれない。確かに点数化することの弊害、されることへの抵抗感は根強いが、アンケートの数値が照射する教員の教育観と学生の満足度を分析し、どのように教育へ生かしていけるのかを問い続ける作業は大学として必要であろう。

本報告書は、2011年に慶應義塾大学教養研究センターが実施した大学教員向けのアンケートの分析と提言である。アンケートによれば、今後の大学における重要な教養教育は「考える力・価値判断ができる力」を陶冶することとの回答が80%を超えた。また目指すべき英語力として「論文の読解力」とする答えが多かったのは、語学力としてのみならず論理力・深い理解力を求める志向が内在していることを示唆している。アンケートに協力してくださった教員の教育観をはからずも表出しているといえるであろう。総じて高い教育への熱意を看取できるアンケート結果である。

対して、学生側は義塾の教育にどの程度満足しているのだろうか。授業・講義について特化した満足度は5段階評価の3.33（学生総合センター実施「2010年度学生生活実態調査」より）である。とりわけ高い値ではない。同じ調査によれば、学生が義塾への進学を決める理由は第一が「義塾の教育・研究の内容に期待」し、次に「社会的評価が慶應義塾は高いから」と考え、さらに「就職に有利であること」を挙げている。これは裏を返せば、教育・研究への注文ともいえる。つまり、良い学生を引き付けるためには「教育・研究の内容」の質が担保される前提があるからこそ、義塾を卒業する学生は社会から評価されるような学生に育っていると期待され、ゆえに就職に有利に働くというサイクルが成立するのである。このサイクルは幸いなことに長く保たれてきた。

2012年は年初から大学教育のシステムへの変革のニュースが喧しかった。ひとつは秋入学の議論である。秋に入学時期をずらすことによって、留学生の受け入れ易さ、国内学生の留学の奨励という効果のみならず、海外の大学との競合を意識した動きといえる。都立高校では海外の大学への入学試験に対応するカリキュラム・コースを準備する動きも見え始めた。日本の大学に進学する意義が問われ始めているのである。日本の国力に影が差している昨今では、企業が人材を一から育てる余力は限られている。日本国外に初めから就職の活路を見出す人材もいる。義塾が日本を、そして世界を先導する人材を育てるのであれば、どのような教育が必要となるのか。大変大きな課題である。教養研究センターとしてもささやかな取り組みを実施している。文部科学省による大学教育推進プログラム、いわゆる教育GPが2011年度で終了することを受けて報告会を実施したが、3年にわたる本センターの取り組みについて外部評価委員から次のようなコメントをいただいた。「ただ単に大学教育を改善したり、機能的に強化しようとしている活動ということだけではなくて、大学教育の在り方について、深く思考し、多面的に構想し、実践し、分析的かつリフレクショナルに検証している「研究」（少なくとも知の革新）。」まさに望外の評価である。まだ課題は多いが、教育GPでは体験や身体知を用いて言語力を伸ばす試みの実践を続ける

ことで、創造的思考力をはぐくむ教育にもつながる可能性がみえてきた。「創造的思考力」という言葉は、実のところ、「学士力」として涵養をめざす能力に挙げられた表現とはからずも一致する。今回のアンケート結果も大学教育がめざすキーワードを含んでいるのではないかと思えるのである。

本アンケートの構想・策定・分析にかかわった教員は学部も専門も異なる顔ぶれである。慶應義塾の教養研究センターは学部の枠組みや方針にとらわれない立場だからこそ見えることがある。自由な雰囲気であるからこそ言えることをこれからもさまざまに探り、提言をおこなっていきたい。本アンケートでは「考える力」を育成することが圧倒的な支持をえた。それと同時に、別の質問項目からは研究と教育の時間配分に悩む姿も透けて見える。研究が、より充実した教育に還元され、互いに活用することで多少なりとも効率化できるのではないか。慶應義塾に蓄えられたそれぞれのキャンパスの知のリソースを持ち寄る場を設け、教育プログラムや方法論の共有ができる勉強会やワークショップ、セミナーを教養研究センターでも開催していきたいと考えている。

塾内外の学びのあり方の中・長期的な展望の中で考えるときが来ていると思う。本アンケート結果と分析と提言がそのお役に立てれば幸いである。

目 次

はじめに ——学び方のすすめ 1

第 I 部 研究報告編..... 5

第 1 章 2010 ～ 11 年度の基盤研究について 7

1. 教養研究センターと基盤研究（カリキュラム研究）
2. 2010 年度大学カリキュラムに関する教員アンケートについて

第 2 章 「2010 年度大学カリキュラムに関する教員アンケート調査」結果分析..... 13

1. 一般的な事項
2. 教養教育の目的
3. 講義要綱・シラバスについて
4. 成績評価について
5. クラス編制と学生のレベル
6. 授業運営について
7. 授業評価について
8. カリキュラム編成、クラス編成
9. 半期制について
10. 研究と教育の関係、その他のバランスについて

第 3 章 「2010 年度大学カリキュラムに関する教員アンケート調査」

自由記述にみられる教員の意識に関する解析 21

1. 質問項目
2. シラバスについて
3. 授業評価について
4. 統一的授業評価について
5. 授業評価についての教員の意見についての考察
6. フィードバックのフォーマットの素案
7. 「評価」について
8. カリキュラムについて
9. 総合的考察

第4章 総括と提言 29

1. 教養教育の目的について
2. シラバス、講義要綱について
3. 成績評価について
4. クラス編制
5. 授業運営について
6. 授業評価について
7. カリキュラム編成
8. 半期制について
9. 研究と教育

第Ⅱ部 資料編 33

2010年度大学カリキュラムに関する教員アンケート集計結果
アンケート依頼状および調査票
集計結果クロス表

第 I 部

研究報告編

第1章 2010～11年度の基盤研究について

本章では、本研究会がこれまで行ってきた調査・研究活動をふり振り返り、今期2010/11年度に、カリキュラムに関するアンケート調査を、慶應義塾大学の教員を対象に行った背景、意義について述べる。

1. 教養研究センターと基盤研究 (カリキュラム研究)

1) これまでの基盤研究とその成果

教養研究センターでは、その開設以来、大学教育に関する総合的な研究を続けてきている。とりわけ大規模な研究調査を行ったのは、2005年度から2006年度にかけての研究である。この研究では、伊藤行雄座長のもと、カリキュラムに関する学生アンケートを全学部対象に調査・解析が行われた。その結果やディスカッションをふまえて、基盤研究会は当時28項目にわたる提言を行っている(8～9ページ)。

その提言は、学生の成績評価方法、セメスター制度、履修登録制度、シラバス、日吉設置学部共通科目のあり方、外国語科目における習熟度別クラス編成の導入と整備、副専攻制度、カリキュラムの国際化、人事とカリキュラム編成について、と多岐にわたる。

それらの提言には、かなり未来志向的な内容も含まれるため、実現にはかなり時間がかかるであろう

ものも含まれていた。しかし、それから5年経過して振り返ると、実現したもの、実現に向けて大きく踏み出しつつあるものも少なくない。

その提言27として「日吉設置学部共通科目(総合教育科目)のカリキュラムの運営・検討を行う組織そしてその下部組織である部門・部会が、科目担当者の人事に関する調整と各学部に対する提案を行う。」というのがある¹⁾。この提言がもととなって、現在の「学部共通カリキュラム委員会」、「日吉カリキュラム検討委員会」が設置された。これは、基盤研究の最も大きな成果とすることができるだろう。

各学部の日吉主任会議や学習指導担当者、前任の西村理事、現長谷山理事の尽力で、この委員会の活動も現在軌道に乗りつつある。日吉カリキュラム検討委員会は、定期的に委員会を開き、日吉の共通科目のカリキュラムに関して次のような検討を行っている。まずは、学部共通科目の調査を行い、共通化の審査や調整を行う。また、芸術、文学、言語学、自然科学では、パイロットケースとして、検討部会を立ち上げ、理念の作成や、科目の具体的な調整作業を開始した。そのほか、歴史部会、地域研究部会、

1) 『2005～2006年度基盤研究報告書 慶應義塾の教育カリキュラム研究——改革への処方箋』、横浜：慶應義塾大学教養研究センター、2007年、16～17頁。

『2005 ～ 2006 年度基盤研究報告書』 より

○ 達成

△ 一部で達成

☆ 現在進行中

(2011年7月時点)

現状の変革をめざして、 実践可能な教育モデルを提示する

■成績評価方法

- △ 提言 1 どのような教科・科目でどのような評価方法が用いられているか、教員間で理解を深める。
- 提言 2 教員は成績評価の観点を必ず学生に公開し、学生に理解させる努力をする。
- 提言 3 同一科目・系統の教員間で、評価規準(criterion)の内容を検討し類似項目の整理・統合をはかることで共通認識を持つ。
- 提言 4 複数の評価項目についてはその重要度(評価比率)を明示する。
- 提言 5 成績評価基準(standard)に関する組織的な統一性を高めるとともに成績評価に関する責任を各教員任せにしない体制をつくる。
- 提言 6 成績評価制度を統括・支援する組織を教職員一体となって形成するとともに、それを中心に成績評価方法を含めたシラバスの公開方法を検討する。
- △ 提言 7 成績評価に関する学生への情報開示について積極的に取り組む。

■セメスター制度

- 提言 8 秋学期の履修登録が可能なセメスター制度を実施する。
- 提言 9 授業をレベル分けし、授業の達成目標を明確化し、順次高いレベルに進むことを誘導するシステムを作る積み上げ型のセメスター制を作る。

■履修登録制度

- 提言 10 秋学期の履修登録を可能にする制度とシステムを整備する。

■講義要項(シラバス)

- 提言 11 紙媒体の講義要項は最小限にし、数年かけて電子媒体のシラバス公表システムを開発する。
- 提言 12 新システムは、教員のシラバス提出、とりまとめ、公表、訂正、時間割・教室公表などのプロセスを一元化したCMS(コンテンツ・マネージメント・システム)とする。
- 提言 13 新システムは検索機能を充実させ、学生が得たいと思う情報を即座に得られるようにし、かつ各科目の実情にあったものとする。

■日吉設置学部共通科目の新しいあり方

- ☆提言 14 日吉設置学部共通科目（総合教育科目）の理念・目標の確立を行う。
- ☆提言 15 日吉設置学部共通科目（総合教育科目）に属するそれぞれの授業の位置づけ、目標、目的の設定を行い、それを学生に積極的に公開・告知していく。
- 提言 16 日吉設置学部共通科目（総合教育科目）を基盤とした、学部の枠を越えた副専攻制度、ダブルメジャー制度、学生がデザインするオリジナル専攻・副専攻制度などを視野に入れた、方向性が見えるカリキュラムの構築を行う。
- 提言 17 日吉設置学部共通科目（総合教育科目）におけるカリキュラムの管理・検討・運営を統括的に行う組織を設立する。そして、この下に位置する文化知部門、社会知部門、科学知部門、複合知部門などのカリキュラム運営母体を確立し、さらには、それより小さい単位の運営母体(部会)の設立も行う。
- 提言 18 教養教育をカリキュラムの核の一つと位置づけできるような学部カリキュラムを設定する。
- 提言 19 日吉設置学部共通科目（総合教育科目）と学部共通科目ではない「外国語科目」、「教養研究センター設置科目」、「外国語教育研究センター設置科目」、「国際センター設置科目」などの科目、さらには、他キャンパス設置の専門課程の授業との連携を確立する。

■外国語科目における習熟度別クラス編成の導入と整備

- 提言 20 各科目の学習目的を明確化することにより、学習目標の設定を容易にし、自発的な学習計画立案を促す。
- 提言 21 クラスター化した時間割編成、完全セメスター制により、柔軟かつ効果的な科目選択

を可能にする。

- 提言 22 外部指標に基づく習熟度・達成度評価法を導入する。
- 提言 23 「ポートフォリオ」等による、共通基準に基づく記述的な習熟度・達成度評価法の導入を行う。
- 提言 24 科目履修要件と成績評価基準を明確化・客観化し、科目履修の「入口」「出口」管理を行う。

■副専攻制度

- 提言 25 現在各学部で行われ始めているさまざまな副専攻プログラム、または副専攻に準ずるようなプログラムを発展させて、さらには、既存の専門課程間での行き来をより拡大、自由にすることにより、慶應義塾大学型の副専攻制度を確立する。

■カリキュラムの国際化

- 提言 26 国際教養コース（仮称）を設置し、英語で行われる授業を体系的に履修した学生に副専攻の認証を与える。

■人事とカリキュラム編成

- 提言 27 日吉設置学部共通科目（総合教育科目）のカリキュラムの運営・検討を行う組織そしてその下部組織である部門・部会が、科目担当者の人事に関する調整と各学部に対する提案を行う。
- 提言 28 日吉設置学部共通科目（総合教育科目）のカリキュラムの運営・検討を行う組織は、各学部の専門課程の授業を運営・検討する組織と緊密な連携を図ることにより、日吉設置学部共通科目（総合教育科目）の枠を超えた副専攻プログラムを確立する。

哲学・論理学・倫理学部会、社会学部会の立ち上げが、2011 年度中に進行している。各分野によって、事情や背景がさまざまであるために、立ち上げ状況や活動の進行状況も一様ではないが、日吉や三田の関連する教員がこれを機会に、理念や今後の目標について意見交換を活発に行うようになったという点では、大きな前進を遂げた。

公式の検討委員会が立ち上がったことで、関連する共通科目を立ち上げる各学部・研究所の諸機関、担当者間で、コミュニケーションをとりやすい環境が整ったと言うことができるだろう。この委員会自体は、科目設置・改廃や人事に関しての最終的な決定権限をもってはいない。しかしながら、日吉全体のバランスの中で、共通科目として認定を行う機能を担うなど、実効性のある調整機関としての一定の効果を発揮し始めている。

学部共通総合教育科目のカリキュラムの精査、個人の興味だけで授業を設置しないための抑止力、学部のカリキュラム方針による日吉での授業の欠落を防止、学部の独自の都合だけでなく全体的なバランスを配慮できるようにすること、履修者数・単位取得者数の調整、時代の変化への科目の対応、といったこれまでの教養研究センターの基盤研究でも再三論議となっていた問題への対処は、今後「学部共通カリキュラム委員会」と「日吉カリキュラム検討委員会」に委ねられることになった。

2006 年度の報告書ではそのほかに、この種の委員会が担うことが望まれるさらなる機能が提言されている。それはすなわち、学部共通カリキュラム委員会が下部の組織との連携によって、学習到達レベルを設定すること、成績評価のあり方に関する教員間の共通理解を促進させること、成績に関する基準の検討と情報の開示、学部の枠を越えた4年間を通じた教養教育のデザイン、カリキュラムの国際化などの機能を担うことができるようになるかに関して

は、まださまざまな検討課題をこなしていかなければならないことも事実である。また、当時の報告書の提言には明示されてはいなかったが、一途拡大の方向に向かいがちな科目の交通整理や、学生の声のフィードバックなどの課題をどのようにこなしていくか、ということも今後検討しなければならないように思える。

いずれにしても、本研究は、学部の機関による代表者が、利害を調整していくようなかたちでなく、教養研究センターを母体としてそれぞれの教員が個人の立場で参加して自由・闊達に論議をし、これまで成果を上げてきた。慶應義塾は非常に大きな組織であり、さまざまな変革に関しては各学部とも慎重に行わなければならないことは言うまでもない。しかし、時代を先導する大学教育を作っていくために、外部環境の変化、学生の資質の変化、とりわけ国際的な環境の変化にアンテナを張って情報を得て、変えることができるものを変える体制を整えておくということも重要なことだろう。教養研究センターの基盤研究は、そのような機能を担ってきた。

2) 教養研究センターの基盤研究 2010～2011 年度の課題

2010 年度の基盤研究を新たに立ち上げた当初、その目標をどのように考えていくかの話し合いが、初回に行われた。

2008 年 3 月 8 日に、教養研究センターは、外部評価のためのシンポジウムを開催している。その際に、「教養研究センターで実施してきたさまざまな取り組みは評価できるが、それを全学的にどのように構造化し、共有化していくのが今後の課題」という内容の指摘を頂いた²⁾。教養研究センターは基盤研究やその他の活動を通じ、さまざまな理念や、メソッド、情報を提示してきている。その活動の厚みは年々増してきている。しかし、その全学的な浸

2) 『慶應義塾大学教養研究センター外部評価活動報告会「みいだす・つなげる・ひろげる」——教養研究センターの過去・現在・未来』、横浜：慶應義塾大学教養研究センター、2008 年、特に 44、59 頁。

透と、大学で学ぶ目標設定と方法論をどのように共有化して実現させていくかということは、大きな課題となっている。

当初の議論としては、その原因としては、4年間での教養教育という理念形成が、まだ学部全体に十分には浸透しておらず、「教養のことは日吉へ」という意識が根強いことが挙げられる、といった意見が出された。そして、日吉の教養研究センターから慶應義塾大学全体に波及していくという理想の展開が作り上げられないか、ということが論議された。

それぞれの学部にはそれぞれの方針があり、またそれぞれの教員にはそれぞれの教育に対する思いがある。教養研究センターの活動は、学部の支援を得、そうした教員たちの情熱によって支えられてきた。

そうしたなか、教員の教育に関する考え方を詳らかにするというのが、意味のあることでないか、という議論がなされるようになり、今回の教員アンケートの実施へと結びついていった。

2. 2010 年度大学カリキュラムに関する教員アンケートについて

そもそも極めて多様な分野の極めて多様な慶應義塾大学の教員が、どのような理想をもち、どのようなことを考え、実際にどのような教育を行い、どのようなことに不満やアイデアをもち、どのようにそれを実現させているか、どのような障害があってそれを実現できないているのだろうか。これらのことを、アンケート調査によって明らかにするということを、今期(2010～11年度)の研究の主眼とした。

1) 質問内容

質問内容としては、さまざまな議論があった。今回の目的は、慶應義塾の教員の教養教育と大学教育の究極的目標や、あり方、方法についての考え方を明らかにし、慶應義塾の教員像のようなものを示していくということであったので、それに沿うかたち

の質問項目を精査していった。

まずは、教養研究の目的について、講義要綱・シラバスについて、成績についての考え方や付け方について、クラス編成と学生レベルについて、授業運営について、授業評価について、カリキュラム編成・クラス編成について、半期制について、研究と教育の関係について、といった内容の質問項目を挙げていった。

とりわけ、今回の調査は対象が600人あまりと多くないので、できるだけ記述の部分を多くし、教員の考えをマルチプル・チョイスのなかに無理矢理集約させるのではなく、なるべく細かなニュアンスや、質問で想定した答えではない答えもくみ取ることができるようにした。もちろん、その際集計上の問題が生じるが、今回はその部分の解析にも力をいれた、新しい方法を試みた結果の解析を第3章に提示してあるので、参照されたい。

2) 対象

慶應義塾には、このアンケートを実施した2011年始め時点で信濃町地区を除き1460人の教員がいる。しかしそのうち、専ら専門教育を行ったり、大学院のみで教育を行う教員もかなりの数含まれており、教養研究センターが活動の拠点としている日吉キャンパスでの教育や、学部学士課程における教養教育ということと職務範囲が異なる教員も多い。いずれの教員も程度の差こそあれ、なんらかのかたちで教養教育に関わったり、関心をもっている。しかし、他方ですべての教員を対象とすると、専ら専門教育や大学院教育のみを行っている教員の比重が非常に高くなって、「慶應義塾大学の教養教育のあり方を問う」という本来の趣旨から、データが離れてしまう可能性がある判断された。対象の限定は非常に難しかった。

さまざまな方面のアドバイスと、研究会内での論議を積み重ねた結果、慶應義塾で大学教養教育に関わっている教員を対象とする方針を決定し、次の

ように対象を限定することとした。

まず、三田キャンパスに関しては各学部所属の専任教員。日吉キャンパスに関しては同じく各学部所属の専任教員に加え、体育研究所所属の専任教員。矢上地区は、理工学部の総合教育委員会の委員。湘南藤沢地区に関しては、各学部所属の専任教員とし、特定分野の専門教育や研究が主として担われている大学院や各研究所、信濃町キャンパス、芝共立キャンパスは対象外とすることにした。

ただ、そのなかでも、キャンパスや学部によって、それぞれ特徴のある教育を行っている。学部教育に積極的に関与・協力している諸研究所所属の教員がいることも、われわれは強く認識していたが、その切り分けは非常に困難であるため、このような限定で調査を行うことにした。ただし、クロス集計を充実させることで、ある程度細かい違いも見ることが

できるようにすることとした。

以下の「第2章『2010年度大学カリキュラムに関するアンケート調査』結果分析」でその結果の分析で特に特徴的なデータを示す。さらに、「第3章『2010年度大学カリキュラムに関する教員アンケート』の自由記述にみられる教員の意識に関する解析報告」で、今回重点を置いた自由記述の解析を提示する。そのうえで、「第4章 総括と提言」では、アンケート結果を総括した上で、これらの結果をふまえた上での今期の基盤研究会としての提言をもまとめた。

アンケートのより詳細な集計結果は、「第Ⅱ部 資料編」(31 ページ～)に、掲載している。

(執筆 佐藤 望)

第2章 「2010年度大学カリキュラムに関する教員アンケート調査」結果分析

第2章では、慶應義塾大学の教員を対象に行った「2010年度大学カリキュラムに関するアンケート調査」のなかから、特徴的なデータを取り上げ、分析する。大学教育の意義として具体的なスキルとともに、とりわけ「考える力・価値判断能力」を養うことを重視することや、成績評価のあり方、授業評価のあり方についての、教員の考え方が明らかになっている。

1. 一般的な事項

「2010年度大学カリキュラムに関する教員アンケート」に回答した教員の人数は合計204人であった。所属地区別には日吉88名、三田69名、湘南藤沢44名、矢上2名であった。学部別では、経済学部48名、総合政策学部／環境情報学部／看護医療学部 計44名、商学部38名、法学部26名、文学部17名、理工学部13名、体育研究所9名、医・薬学部8名となった（図1-1）

また、図1-2で大学での教育年数別に見ると、さまざまな教育年数層から回答が得られたことがわかる。総合教育科目担当経験別（図1-3）では、「ある」と答えた教員が70%と圧倒的に多かった。

以上のことから、教養教育に注目した大学カリキュラムに関する教員アンケートとして、バランスのとれた母集団から回答を得られたと考えられる。

図1-1 所属と所属地区

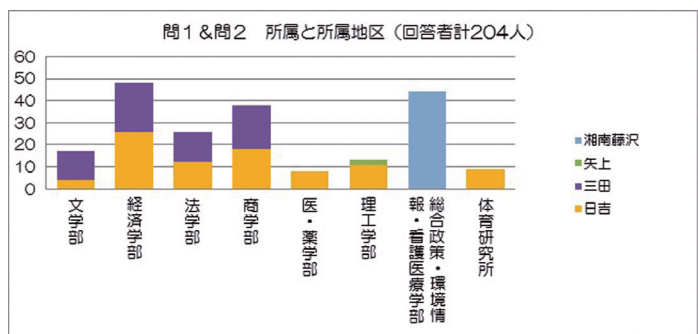


図1-2 大学における教育年数

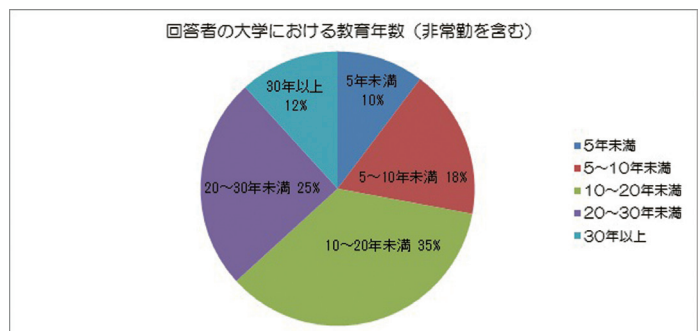
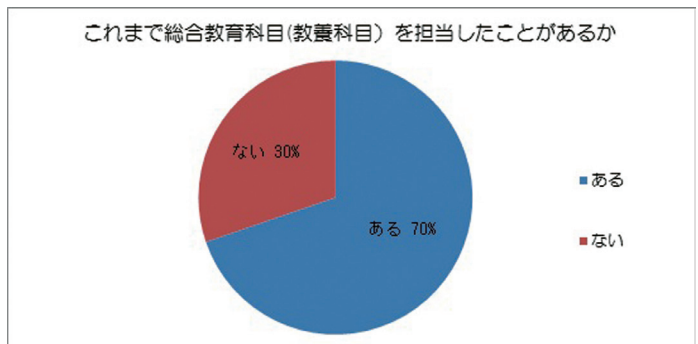


図1-3 総合教育科目担当経験



2. 教養教育の目的

ここでは教養教育の目的と、教養としての語学（英語・第二外国語）で身につけてほしい能力について回答を得た（複数回答可）。

まず、大学で身につけてほしい具体的な教養について（図 2-1）は「考える力や価値判断力」が最も多く全体の 86.3% の教員が回答した。特に総合政策学部／環境情報学部／看護医療学部では 93.3% の教員がこれを選んだ。続いて「文化や歴史に関する理解」（71.6%）、「コミュニケーション能力」（58.3%）が多く選ばれた回答となった。「英語」は全体の 52.9% が身につけてほしいと回答し、学部別には文学部の 64.7% が最も高い一方、体育研究所が 33.3% と最も低く、分野の影響が見られた。地区別には三田で 59.4%、日吉 45.5% となり、三田地区の教員の方が日吉地区の教員より比較的強く、英語を教養として身につけてほしいと考えているようだ。

次に、大学の教養としての英語については「論文の読解力」が一番高く全体の約半数 49.5% の教員が選択した。ついで「仕事で使える程度」（44.6%）「プレゼンテーション能力」（43.1%）と、高い英語のレベルを実用的な面で期待していることがわかる（図 2-2）。

英語以外の外国語について（図 2-3）は、全体の 54.4% が「日常会話程度」できるようになってほしいと考えている。

図 2-1 大学で身につけて欲しい具体的な教養（複数回答可）

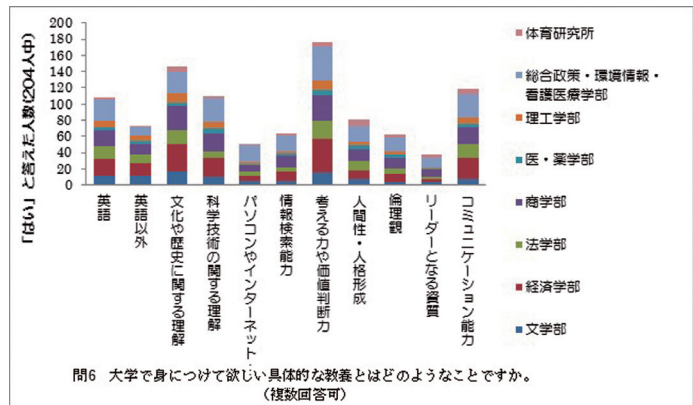


図 2-2 大学で身につけるべき英語の能力（複数回答可）

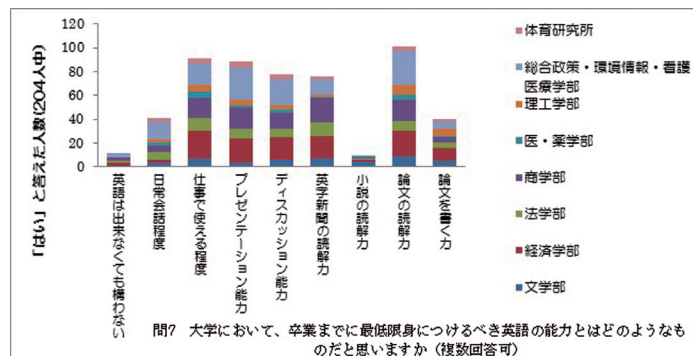
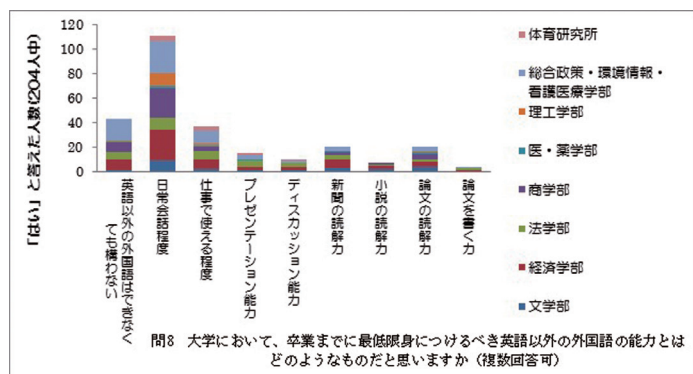


図 2-3 大学で身につけるべき英語以外の外国語の能力（複数回答可）



3. 講義要綱・シラバスについて

シラバスに関する項目では、まず、問9で「学生はシラバスを読んで履修している」と考える教員は全体の約半数（56%）だった（図3-1）。これは必修科目でクラス指定などがある場合、シラバスを読んでいない可能性が高いことが考えられるからであろう。また、関連する他の授業のシラバスについて「読んでいる」または「おおむね読んでいる」とした教員も55%に過ぎなかった（問10）。

電子シラバスと冊子体のシラバスの比較において、冊子体のシラバスについては簡略版、または授業科目名と担当者名程度のもので十分と考える教員が大半であり、必要ないと考える教員も30%に及んだ（図3-2）。問12の「授業はシラバス通りに進んでいるか」については、93%の教員が「進んでいる」または「どちらかといえば進んでいる」と回答した。

シラバスと関連して、一部の学生が制作し販売している日吉の授業を紹介する冊子『リシュール』を知っているかどうかという質問には全体の約半数の54%が「知っている」と回答した（図3-3）。しかし日吉以外のキャンパスに所属する教員は存在を知らない率が高い。また、知っていると答えた教員にリシュールに関する考えを聞いたところ回答はさまざまに分かれたが、多くが制作あるいは存在自体を認める傾向にあった（図3-4）。「利用しないように周知すべき」が最も低く8%であった。

図3-2 冊子体のシラバスの必要性

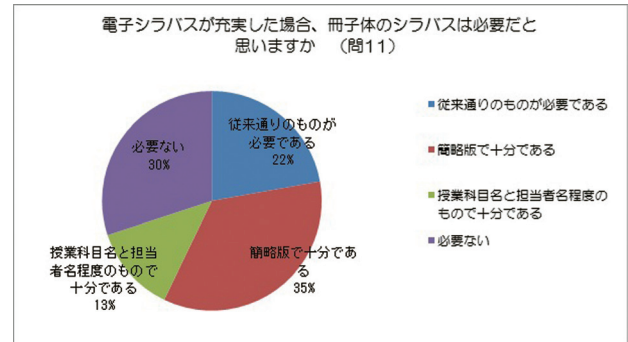


図3-3 地区別リシュール認知度（人数）

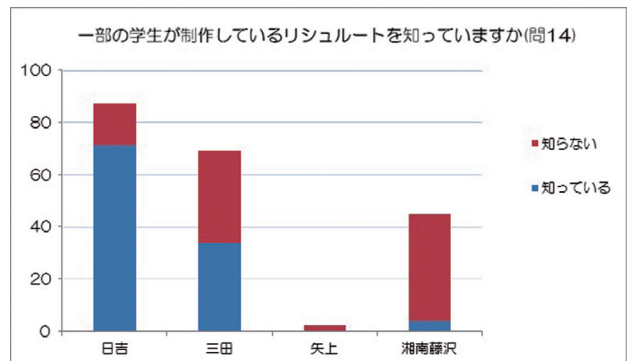


図3-1 学生とシラバス

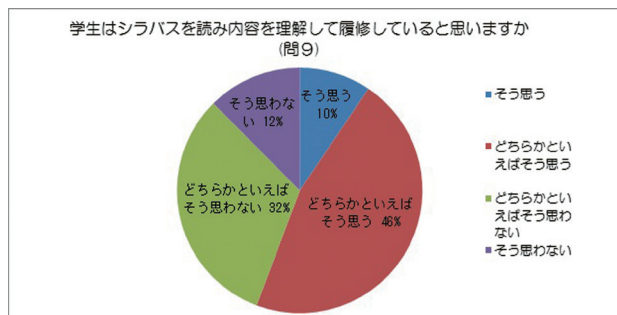
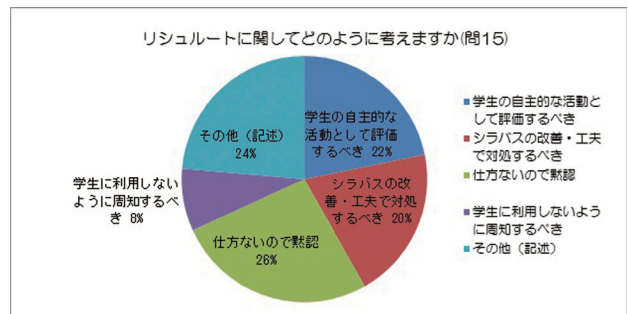


図3-4 リシュールに関しての考え



4. 成績評価について

成績評価に関しては、基準の公表、単位のとりやすさ、出席、評価方法、などさまざまな観点から質問を行った。「成績評価の基準をあらかじめ明らかにしているか」の問16に関しては、明確に公表している教員が多く、シラバスで公表（60.3%）、授業開始後公表（30.4%）であった。

成績評価に関して「授業参加度などのプロセスを重視するか、または試験など結果を重視するか」という問19には、「結果重視」と「どちらかといえば結果重視」と答えた教員が全体の60.5%で、「プロセス重視」派よりやや多かった。科目や受講人数と関連すると思われる（図4-1）。出席に関しては「毎回とる」が半数であった（図4-2）。上記同様、科目や受講人数と関連すると思われる。

また、相対評価と絶対評価のどちらが成績評価方法として好ましいかについては、割合を前もって決めない絶対評価をより好ましく考える教員が多かった（「絶対評価」あるいは「どちらかといえば絶対評価」が全体の70.4%）（図4-3）。

図4-1 成績評価はプロセス重視か結果重視か

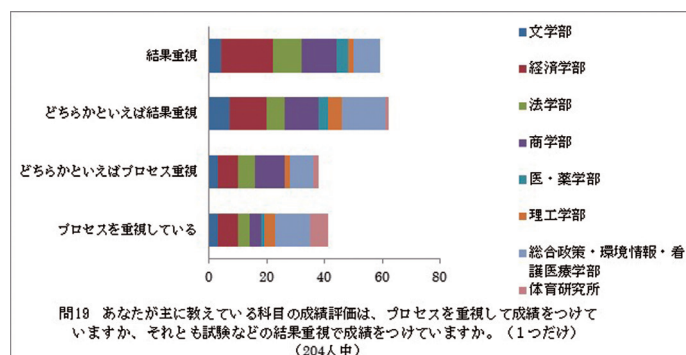


図4-2 出欠確認の有無

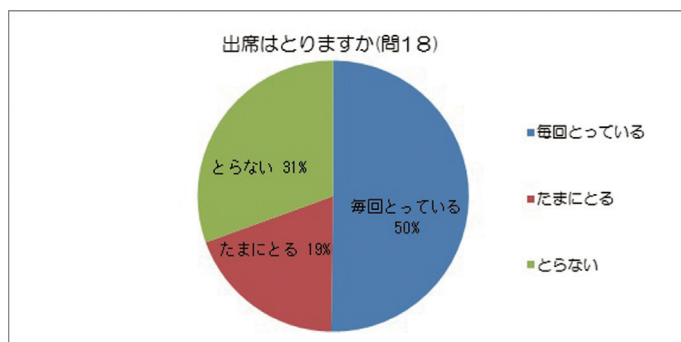
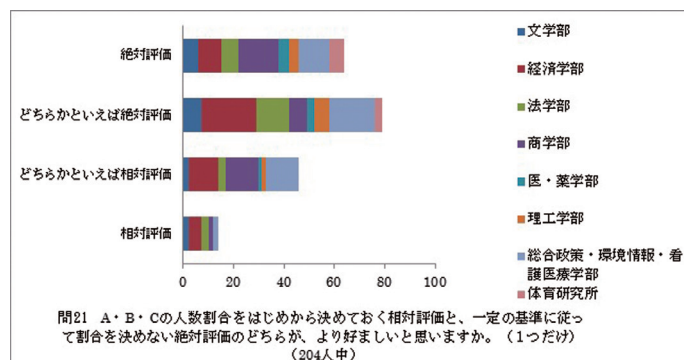


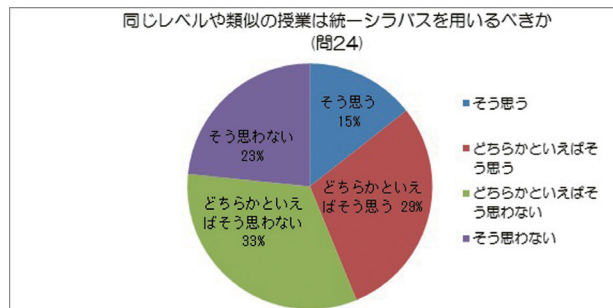
図4-3 相対評価と絶対評価、どちらが好ましいか



5. クラス編成と学生のレベル

統一シラバス（教材・評価基準等）を用いることについて（問 24）は、意見がさまざまに分かれたが、否定的な意見が過半数となっている（図 5-1）。また、体系的な学習のために一定の科目に履修要件を設けることについて（問 25）は「(科目の目的によっては) 履修要件を設けても良い」が圧倒的に多く、全体の 87.6% が肯定的であった。

図 5-1 統一シラバスを用いるべきか



6. 授業運営について

授業運営においてどのような工夫を行っているかを調査するために、インターネットの利用、質問しやすい環境づくり、過去問や過去ノートが存在、教授法、学生のケアなどについての設問があった。

パソコン・インターネットについて（問 26）は 71% の教員が授業や教育に関連して利用している、と答えた（図 6-1）。そのうち、最も多かったのが「keio.jp の教育支援システム」で 49.3% の教員が利用している。他に、「メーリングリスト」（41.7%）「教員または授業のウェブサイト」（40.3%）と幅広く利用していることがわかる。

授業を理解していない学生について（問 33）は、オフィスアワーやメールでの質問を受け付けてはいるが、「補習の時間を設ける」といった教員からの積極的なケアは 4% となっている（図 6-2）。

図 6-1 学生とシラバス

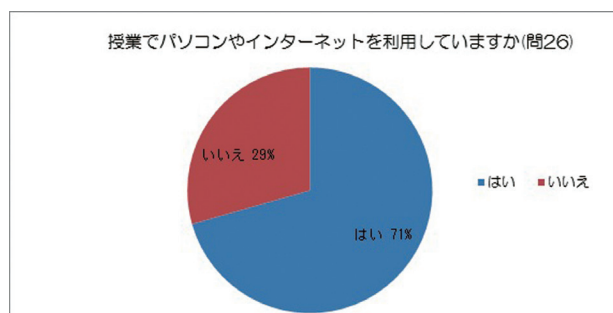
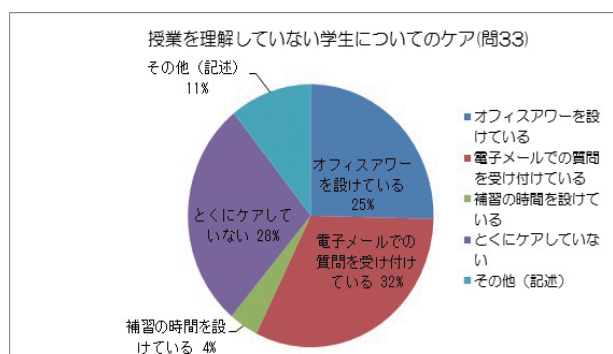


図 6-2 学生とシラバス



7. 授業評価について

自分の授業について、何らかの授業評価を学生から受けている教員が多い（全体の 73.0%）（図 7-1）。湘南藤沢地区では、授業評価が導入されているためほぼ「受けている」との回答となった。また、学生による何らかの授業評価が必要だと考える教員が多い（全体の 75.3%）（図 7-2）。

しかし、問 40 の統一的な授業評価導入については意見が半分に分かれた。「（どちらかといえば）するべきである」が全体の 49.8%で「（どちらかといえば）するべきでない」が 50.2%との結果だった。（図 7-3）。

図 7-1 学生からのフィードバック

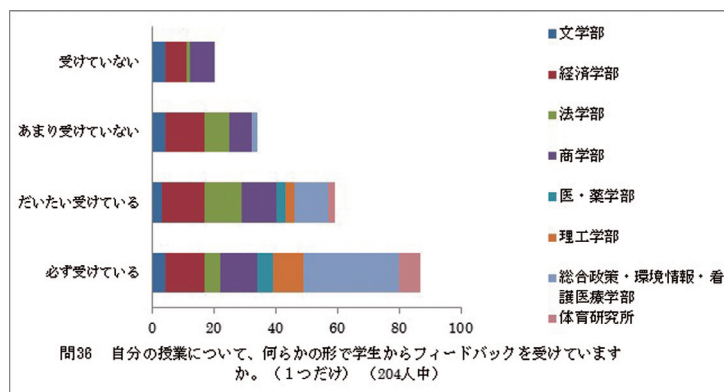


図 7-2 授業評価は必要か

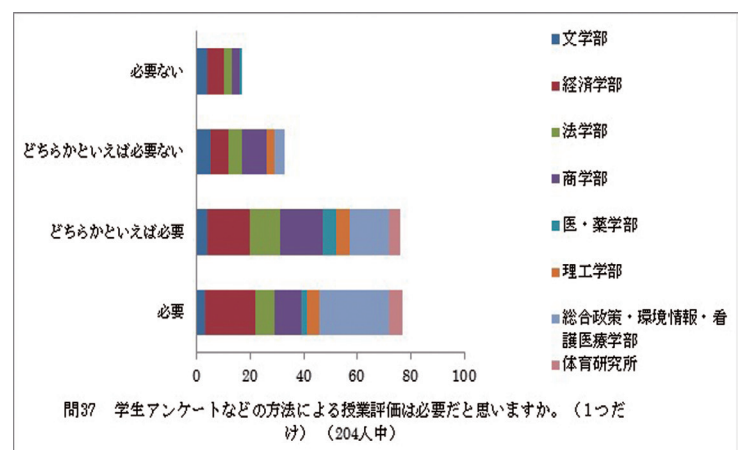
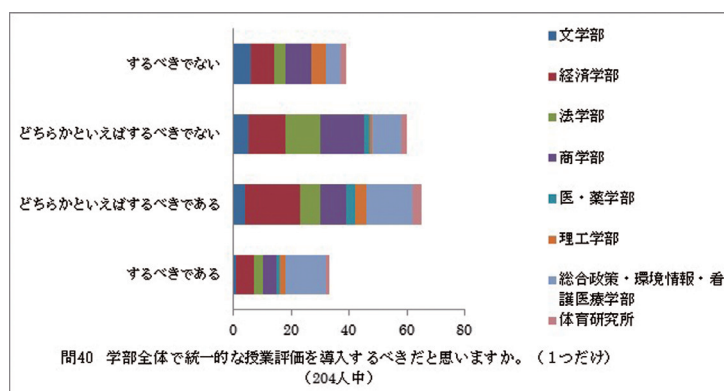


図 7-3 学部全体で統一的な授業評価を導入するべきか



8. カリキュラム編成、クラス編成

所属学部のカリキュラムについての理解度意識や、他学部のカリキュラムとの関係、各カリキュラム検討委員会の知識、クラス担任制について回答を得た。

問43の「担当科目の学部カリキュラムにおける位置づけ」については「知っている」(66.7%)「だいたい知っている」(24.5%)と大多数の教員が自信を持って回答した。しかし、学部のカリキュラムの理解についての意識(問44)は多少低くなり、「よく理解している」は25%に留まり「だいたい理解している」が半数以上を占めた(59%) (図8-1)。また、図8-2(問47)では、カリキュラム検討委員会の認知度は周知する余地が大きくあることがうかがわれる。

図8-1 学部のカリキュラムの理解度

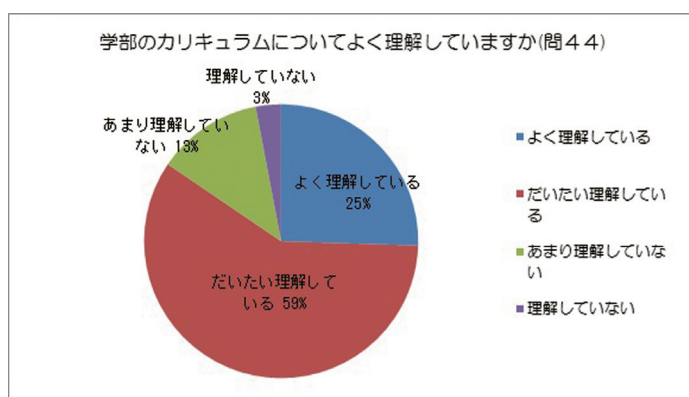


図8-2 カリキュラム検討委員会の認知度

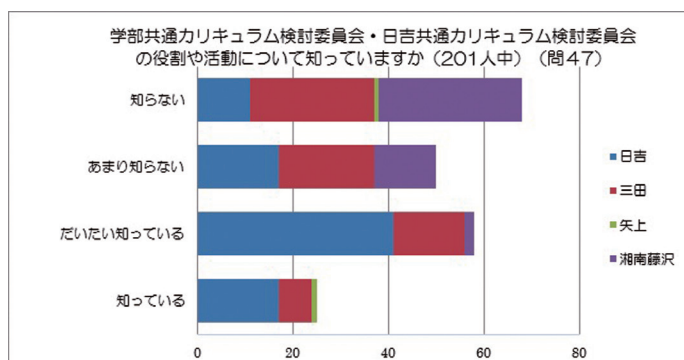
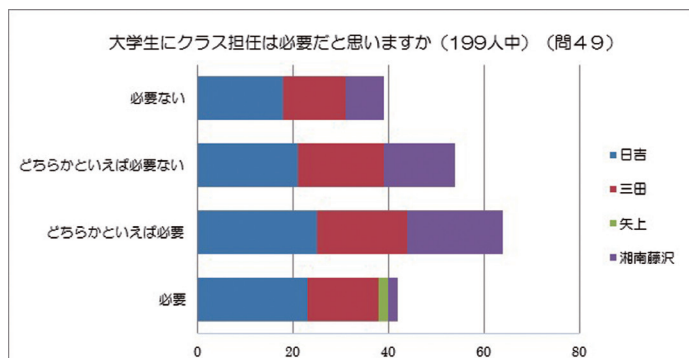


図8-3 クラス担任の必要性



9. 半期制について

問 51、2005 年度から三田・日吉キャンパスで導入された通年半期制については、多くの人が「良かった」もしくは「どちらかといえば良かった」(57.7%)と答えていることがわかった (図 9-1)。

また半期制の今後については、半期制の維持を希望する回答が大半で、更に秋学期履修登録の導入を希望する声が多く聞かれた (51.5%)。通年制に戻すべきという意見は少数派となった (図 9-2)。

図 9-1 通年半期制導入についての意見

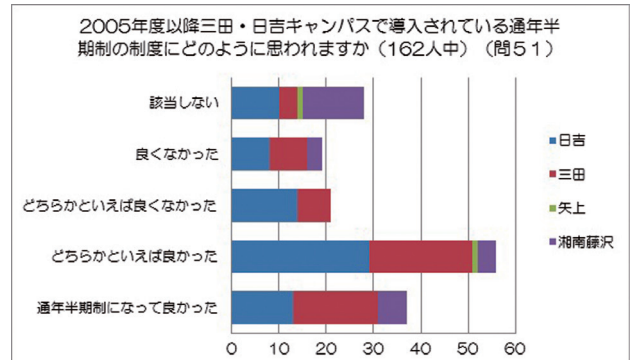
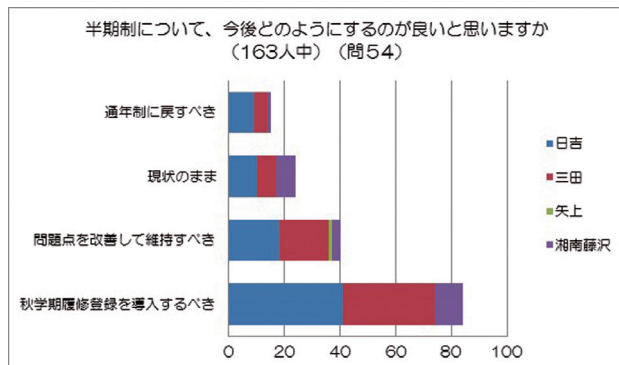


図 9-2 通年半期制の今後についての意見



10. 研究と教育の関係、その他のバランスについて

最後の項目では、研究と教育にかける時間のバランスについて聞いたところ、理想 (問 56) では「研究 5 割」以上 (研究 5 割教育 5 割、研究 6～7 割教育 3～4 割、研究 8～9 割教育 1～2 割の計) を望む回答が 94.4%に達したが、実態 (問 55) では「研究 5 割」以上は 59%に留まった (表 10-1)。

最後に、所属学部・研究部の教育カリキュラムについて見直しが必要と考えるかどうかを聞いた。結果、各学部・研究所とも「一部見直しが必要」の回答が圧倒的に多く、全体としても 60%を占めた (表 10-2)。

図 10-1 研究と教育のバランスの実態

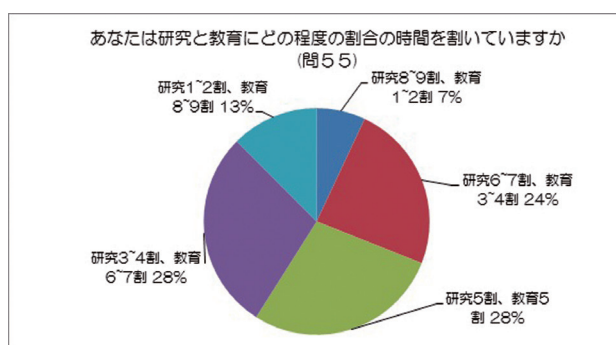
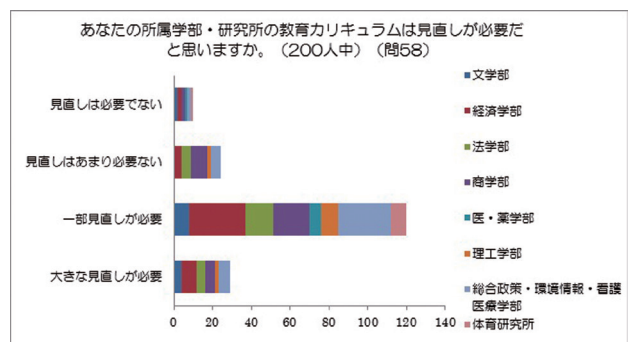


図 10-2 所属学部・研究部の教育カリキュラム見直しの必要性



(執筆 佐々木美帆)

第3章 「2010年度大学カリキュラムに関する教員アンケート調査」自由記述にみられる教員の意識に関する解析

慶應義塾大学の教員を対象に行った「2010年度大学カリキュラムに関する教員アンケート調査」では、自由記述の項目を多く設けた。そして、アンケート調査に回答した多くの教員が、非常に熱心にこの自由記述の項目に記入した。その多量の記述内容を、独自の方法で解析し、項目選択のパーセンテージには現れない大学教育やカリキュラムに関する教員の思いの一旦を、明らかにすることを試みた。本章では、その解析結果を提示する。

『2010年度大学カリキュラムに関する教員アンケート』における自由記述についての解析について報告する。自由記述は、Trustia 1.0.3.0 Mining Assistant を用いて行った。フォーマットのある選択肢から回答を選ぶアンケートで、調査対象者の全体像を統計的に把握することも極めて重要であるが、制限のない自由な記述の中に、教員の生の意識を垣間見ることができることも貴重で重要なことであると考えられる。

1. 質問項目

『2010年度大学カリキュラムに関する教員アンケート』（以下、『アンケート』）には、自由に回答してもらえる自由記述の質問が5問あった。それは、以下の通りである（資料38～45頁）。

問13『シラバスの形式について改善すべき点があれば、具体的にお書きください』

問38『問37（「学生アンケートなどの方法による授業評価は必要だと思いますか」）で「必要（1または2）」と答えた方へその理由を具体的に書いてください』

問39『問37で必要ない（3または4）」と答えた方へその理由を具体的に書いてください』

問41『問40（「学部全体で統一的な授業評価を導入すべきだと思いますか」）で「すべき（1または2）」と答えた方へその理由を具体的に書いてください』

問42『問40で「すべきでない（3または4）」と答えた方へその理由を具体的に書いてください』

問59『慶應義塾大学の教育カリキュラムについてのお考えを自由に記述してください』

これらの5つの質問は、大きく分けると、シラバス（問13）、授業評価（問38・39）、統一的授業評価（問41・42）、カリキュラム（問59）の4つに分けられる。まずは、シラバスについて教員の自由記述の解析からみていきたい。

2. シラバスについて

Trustia の解析結果を意味内容から分類すると、まずは6種類に大別できた。これらをさらにまとめると、改善点、形態、現状維持に関する意見があった。

1) 改善点

- 具体的・詳細：もっと具体的な記述があるべき。分量的にあまりにも少ない。詳細に書くべきである。
- 評価方法：評価方法等はハッキリさせ、最低でも3つ以上の観点からの評価を義務づけるべきである。出席を重視し、大学側はそのための支援をすべきである。あいまいな「平常点」という選択肢を設けず、教員各自の観点に合った項目を示してもらうべき。
- 回数（15回）：科目によって形式は異なることを前提にして欲しい。語学の授業では、毎回あるパターンの繰り返しになることも多いので、これを全回数分書き記すのは不合理。時事的な内容も扱う授業の場合、かえって探求の内容が悪くなる。ゼミの場合は無理。
- 臨機応変：授業は人を見て進んでいくものです。クラスによっては、シラバスのスケジュール通りにはいかないものだと思います。その意味で画一的なシラバスがよいのかどうか疑問です。シラバスでは最低限の目標を明記するだけにして、後は臨機応変にした方がいい。

まず、改善できる点について教員が考えていることは、より具体的に記述すべき、評価方法もより具体的に記述すべき、回数については柔軟に、そして臨機応変にしたほうがよい、という意見があった。授業内容や評価についての具体的な記述に関しては、教員個人個人が意識して改善できることであると考えられる。

2) 形態

- 電子シラバス：電子シラバスになるなら、自由記述欄を設けて欲しい。アクセスの自由度を保証することが条件。
- 冊子体：冊子体のシラバスを数百冊用意して、希望者のみに配布すればいい。冊子体のシラバスは有料化すればよい。持ち運びが困難なので、小冊子に分けてはどうでしょうか。

電子シラバスにおいても、冊子体においても、何らかの対応が必要になるとの考えが示された。ただ、どうしても電子シラバスにすべきとか、冊子体にすべきという意見はほとんど見られなかった。

3) 現状維持

- 現状維持：概ね現行でよいが、定期的に全体のシラバスとカリキュラムの主旨が一致しているか点検、確認が必要。慶應でのシラバスは米国大学（院）でのコースロースターにあたる。呼称の検討が必要。

現状維持でもよいという意見があった。ただし、現状の慶應義塾大学でのシラバスが、国際的に一般に言われるシラバスと同様のものになっているのかという疑問も呈された。

3. 授業評価について

まずは、授業評価を必要と考えた教員の自由記述をTrustiaを用いて解析して分類し、それをさらに意味内容から分類した。

- フィードバック：学生からのフィードバックにより、適切な対応を行うことはプロとしては必要だと思います。
- 独善的：独善的な授業にならないようにするため。
- 改善：授業の内容、質向上のため。授業を工夫、改善することができる。客観的な評価がなされるかは疑問があるが、プラス面にしても、マイナス面にしても教える側が気づかない指摘があり参考になることがある。
- 学生の意見：履修者の建設的な意見は受け取るべき。学生側の授業に対するコメント、フィードバックは授業運営向上に役立つ
- 大教室：大教室での授業では一方通行になってしまうので。
- 満足度向上：学生の満足度向上のために必要。
- ニーズ：学生のニーズに対して、成果を出せる様、

努力する必要がある。

- 欠点：教授法で自分が気づかない欠点を学生が指摘してくれる。学生の自由意見は反省材料になる
- FD：FDに効果的だから
- SFC：SFCは「教員が授業評価を受けることは業務の一部」という文化なので「必要な理由」を問われること自体にひどく驚きました。日吉や三田との感覚の違いを痛感します。

多くの意見は、授業評価としてよりも、学生からのフィードバックによって、教員の独善的な授業にならないよう、授業を改善し、学生の満足度を上げたり、学生のニーズに応えたりすることができる、という意見であった。また、そうしたフィードバックとしての授業評価は、教員のFDには有効であり、SFCでは既に行われているので、このアンケートの質問自体に疑問をもつ意見もあった。

次に、授業評価を不必要と考えた教員の自由記述をTrustiaを用いて解析して分類し、それをさらに意味内容から分類した。

- 学生の問題：不満のある学生しか答えないので偏った情報しか出てこない。アンケートが形骸化してそれが学生の負担になることを危惧する。一部の学生しか答えていないのにそれを全体の意見として解釈することの問題。半数近い学生が「単位を下さい」「遅刻の扱いが厳しい」などの要望を書き、授業の改善に資する回答が少ない。1・2度来ただけの学生に評価はできない。無責任ななぐり書き、中傷が多い。
- 単位取得の難易度：単位のとりやすさを評価されても意味がない。楽勝科目が評価されやすい。「評価」自体については経験上、単位取得の難易度によって左右される場合が多いため、余り有効ではない。
- 授業内で十分：授業時にコミュニケーションすべき問題。過去、各種アンケートを積極的にとっていた時期があるが、役立ったことはない。無記名の場合の批判的回答は無責任かつ、不熱心な学生のも

のがほとんど。記名の場合、有益な批判的回答はあまりつかない。

- 評価のあり方：授業改善の方法として授業評価は不適切と考える。改善点を具体的に指摘してもらえそうな工夫をした方がよい。フィードバックは必要だが、評価はおかしい。良い評価を得たとしても、現在はそれが教員の昇進や研究面での待遇に何ら反映されない。
- 教師の自主性：フィードバックは各教師が自主的に頻繁に行うべき。教員の自主性にまかせて下さいませんか。私は自分が知りたいことを学生に聞いています。

まずは、アンケートに答える学生に問題があり、役に立たないという意見があった。さらに、学生からの「評価」となると、その授業の単位取得難易度が大きく関わり、単位が取りやすいほど、その授業が良いものと「評価」されてしまう、という問題点も挙げられていた。そして、授業内で十分に学生からのフィードバックが得られるという意見もあった。

さらには、学生からの授業の「評価」は望ましくないが、「フィードバック」は必要であるとの意見もあり、教師の自主性に任せてほしい、という意見もあった。

4. 統一的授業評価について

まずは、統一的授業評価をするべきと考えた教員の自由記述をTrustiaを用いて解析して分類し、それをさらに意味内容から分類した。

- 学部あるいは全塾：全塾的に教育環境を向上する必要があるから。各自に委ねるのは学部という組織にとって不利益となる。教員によって異なることの大きさはあまりない方がよいと思う。学部としてどのような教育を目指すのかというコンセンサスが反映されるべき。各自で勝手にやっても意味がない。するならば学部単位ではなく、大学全

体すべきと考えるため。授業評価をしている科目とそうでない科目があるのは望ましくない。全体で導入しなければ問題点が浮かび上がらない。主要大学で授業別評価をやっていないのは今や慶應のみ。まことに恥ずかしい現状を至急改めるべき。半教半学の福沢精神が泣いている。学部全体で授業の改善を行う時に必要。

- 現状把握：授業内容が大変劣っている教員がいると学生から聞いている。現状は把握すべきである。あまりにひどい講義をする教員をなくす。
- 比較：相互に比較可能になる（個人間、時系列的）。教員の相対的評価に必要。
- 評価基準：各部会（学部ごとに違うが）がおおよその評価基準を明確にした方が良い。
- フォーマット：授業内容、分野によって、ある程度、項目を選択できる様な形で、共通のフォーマットがあれば便利
- 法学部：法学部では一応の標準スタイルの授業評価アンケート用紙があり、このやり方で授業の終わりにアンケートを実施し、集計もFD委員会（実際は教務課事務）にやってもらって、自己評価を記述するという形式をとっていて、それならば教員の負担も少なくすんでいる。
- SFC：SFC全体で既に取り組まれている。Webベースなので、回答率が良くない年度もあるが、少なくとも学生たちが意見を言える一つの窓口だと思うので、重要だと考える。

統一的授業評価が必要という意見には、学部あるいは全塾での教育環境を向上させる必要があるという意見があった。また、こうした統一的授業評価を行うことで、あまりにひどい教員がいないかどうか現状把握したり、比較したりすることも可能になるという意見があった。また、統一的授業評価において、評価基準やフォーマットに各部会などである程度共通したものがあれば便利だという意見があった。さらには、法学部やSFCで行われている統一的授業評価についての記述もみられた。

次に、統一的授業評価をするべきでないと考えた教員の自由記述をTrustiaを用いて解析して分類し、それをさらに意味内容から分類した。

- 不可能：不可能でありナンセンスである。
- 多様性：学問領域ごとに教授法は様々であるので統一（画一）した評価はすべきではない。形式、目的が異なるのだから、統一は無理。
- 個性：教員の個性を活かした授業を尊重すべきだから。個性的な授業展開ができなくなるので。大学には個性的な授業があってよいと思うので。
- 自主性：授業評価はあくまで自分（教員）の自己改善のためのものであって、強制されるべきものではない。教員の自主性に任せるべき。
- 自由記述：数値化された授業評価よりも自由記述式の方が教員にとって参考となる。
- 無駄：授業評価が教員の待遇や給与に反映されるわけでもなく、まったく効果がない上、紙と労力の無駄になるだけ。
- 迎合：非常勤講師がアンケート結果を気にして、学生に迎合する虞れがある。

不可能であり、ナンセンスである、という意見があった。ただし、これらの意見には、理由がなく、ただ、不可能、ナンセンス、無理、という言葉だけ記載されていることが多かった。また、それらと同様の意見として、不可能だとしながらも、その理由が述べられているものには、教授法には多様性や個性が認められるべきで、授業評価は教員の自主性に任せるべきだとの意見もあった。授業評価を数量化するのではなく、自由記述の方が望ましいという意見もあったが、これは、フィードバックなら行っても良いと解釈することもできた。同様に、無駄との意見もあったが、「評価」を教員の待遇に反映しないのであれが無駄だが、「フィードバック」を授業改善に役立てるのなら良い、と解釈することもできる。

5. 授業評価についての教員の意見についての考察

まず、授業評価を2つの側面に分けて考える必要がある。「フィードバック」と「評価」である。今回は授業評価について教員の自由記述を求めたが、授業評価について好意的な意見があったのは、授業評価を「フィードバック」と捉えている場合に多く見られた。「フィードバック」としての授業評価であれば、教員が独善的にならず、授業改善に役立ち、学生の満足度を上げることができ、更には、統一的な「フィードバック」のフォーマットを用いて、教員間や学部間で比較したり、学部内の教員の現状把握を行ったり等、有効な用い方の可能性を示唆する意見が多かった。これに対して、授業評価を「評価」と捉えた場合には、否定的な意見が多く見られた。多くの教員にとって、授業を「評価」されるということについては、強い拒否反応があることが推察できた。従って、授業評価のアンケートの問題を議論する際には、まずは、この「フィードバック」と「評価」という2つの側面から考えなければならない。より精確にこの両者についての教員の意識を明らかにするためには、明確に両者を分けた上での再調査が必要である。

今回、少なくとも「フィードバック」については、好意的な意見が多く、統一的な「フィードバック」のフォーマットがあっても良いと考えられるので、ひとつの素案として、以下のような「フィードバック」のフォーマットを提案したい。この程度の内容であれば、授業を「評価」することにはならず、授業の改善にも役立てることができるであろうし、統一的な授業評価を行う場合には、現状把握をすることにも役立つと考えられる。

6. フィードバックのフォーマットの素案

そこで、統一的な「フィードバック」について、これを進めるとした場合、以下の項目について学生

に尋ねることは有益であると考えられる。

- 授業の難易度
- 授業の分量
- 教員の熱意
- 教員の説明の分かりやすさ
- 授業の改善点と要望

これらのアンケートを教員に強要するとすれば、そこにはまた別の議論が必要となるが、ここに挙げたような項目は、統一的な「フィードバック」のたたき台として提案したい。

7. 「評価」について

また、授業を「評価」する、ということに関しては、現状では、教員の意識としては望ましいものではないという意見が多かった。特に、そうした「評価」を教員の待遇や給与に反映させることには強いネガティブな意見が散見されており、「評価」を教員の待遇などに反映させることについては、実数としては少数意見ではあったが、多くの教員は反対していると考えられる。

授業を「評価」するということ、また、その「評価」をどのように用いるのかについては、更なる再調査に基づいた考察が必要となる。

8. カリキュラムについて

カリキュラムについての教員の自由記述を Trustia を用いて解析して分類し、それをさらに意味内容から分類したところ、以下のように多種多様な意見があった。

- 英語：3年次にゼミに入ってくる学生の英語の貧弱さに驚かされる。入試の英語は相当の勉強を必要とするレベルであるが、2年間を経ると、かく

も劣化するものかと思う。

- 各学年の問題：1・2年生の固定的な語学の必修授業に代え、いつでも必要なときに、必要な語学を集中的に習得出来るようなシステムを構築すべきではないか。3年秋～4年春のほぼ一年間の教育が空洞化している。

このような意見も散見されたが、大学教育における英語教育の問題は、おそらく多くの大学にとって同様の悩みがあることと考えられる。大学受験までは、受験のために、一所懸命勉強するが、大学に入れた後は、英語の実力がなければ進級できないとか、卒業できない、というシステムがない。従って、この問題は、大学における英語教育の問題だけではなく、日本における、より大きな枠組みの中のシステム全体の問題として議論されるべき問題であると考えられる。また、3年秋からの教育の空洞化についても、日本では就職活動の時期であり、同様にシステム全体の問題であると考えられる。

- 国際化：半期性にして、国際化するべき。あるいは、通年にして夏休みを活用すべき。
- 単位数：1科目4単位にし、週2回授業すべきである。現在のやり方は学生の履修する科目が多すぎて充分学べない。
- 評価：カリキュラム、シラバス、制度（秋登録）等に改善の余地があると思われます。しかし、最も問題なのは評価方法の枠組だと思います。
- ネット：ネットを活用した効果的な授業展開など、新しく便利なツールや環境を活用できるような支援を期待する。
- カリキュラム：カリキュラムはいいが、授業の内容を充実させるべき

半期性の問題や、週2回の授業、評価の枠組み、ネットの活用などカリキュラムに直結する問題に対する提起もあった。こうした問題については、大学内部においても、議論して、より最善を目指すこと

が必要であろう。また、現状のカリキュラムを肯定する意見もあったが、授業の内容については、評価方法と同様に改善の余地はあるものと考えられる。

- 学部横断：学部を超えて統一的なカリキュラムを編成すべきである。
- 重複：学部ごとに教養科目が設置され、内容が重複している科目も多いので、その点を見直すべきだと思う。

学部ごとのカリキュラム編成については、いわゆる教養科目において、無駄や不足が生じないように考えていくことが重要であろう。例えば、日吉キャンパスにおける「〇〇〇検討委員会」等の委員会での調整は今後も重要になっていくものと考えられる。

- 慶應：他の大学の動向や文部科学省の顔色を眺めながらカリキュラムをころころ変える必要がない。慶應義塾が長年慈しみ培ってきた心と精神は永遠に讃えなければなりません。

慶應独自の伝統を重視すべきという意見も複数あった。改善すべきところは改善し、同時に、先人の優れていたところは引き継ぐべきことについては、外圧に負けずに継承していくことを求めている教員が少なからずいることが推察される。

- 研究：もう少し研究期間がとれるものと思って赴任したが、想像以上に教育の負担が大きい。これ以上、教育や学部運営の仕事が負担させられるならば、研究の質は落ち、激化する国際競争には勝ち目がありません。

大学は、教育と同時に研究をも行う機関であり、教員はその両方を担っているのだが、あまりに教育にばかりにその比重を置いてしまうと研究が疎かになってしまうことが明らかなのである。大学教員の負担と、成果については、改めて別の枠組みで議論が必要である。

- 日吉：日吉では1・2年生が3・4年生あるいは大学院生と接する機会が少なく、学生間の教育効果が少ない。大多数の教員が賛同するような教養教育の理念が慶應の日吉にまだできていないことが問題である。
- SFC：SFCの教員にとっては、意味がよくわからない所があった。SFCの教員ですが、全体に時代遅れのアンケートの感があります。

各キャンパス独自の観点から記述されており、日吉キャンパスについては、三田キャンパスとの交流の少なさについての問題点が語られている。また、SFCキャンパスでは、例えば、「授業評価」については、各学部で既に統一的なされており、他キャンパスとは異なる状況にあったため、仮に、再調査を行う場合には、各キャンパスごとの事情に合わせたアンケートの内容に代えるべきで、今回のアンケートにおける反省点でもあったと考えられる。

9. 総合的考察

今回の教員調査では、30%超の教員の協力があり、こうした全数を対象としたアンケートとしては、比較的高い協力率であったと言える。さらに、自由記述においては、大変長い記述もあり、教員の高い関心がうかがわれた。

こうした調査の中で、自由記述は、一般的にはあまり重要視されない傾向があるが、今回、自由記述を検証してみて、多くの有益な意見があることが再確認された。今後は、更なる調査研究を続けて、より良い大学教育のあり方を検討し続けることが重要なのではないかと考えられる。

(執筆 木島伸彦)

第4章 総括と提言

最終章である本章では、慶應義塾大学の教員を対象に行った「2010年度大学カリキュラムに関する教員アンケート調査」の結果を総括する。研究会では、それをふまえ、今後、慶應義塾大学の教育、とりわけ日吉キャンパスを中心とする教養教育にどのように活かしていけるかを論議した。その内容を、ここに将来に向けての提言として提示する。

今回のアンケート調査における教員各位の記述から、慶應義塾大学の教員の高い意識と教育に対する熱意が裏付けられたように思える。これらの回答を総合し、これからの慶應義塾大学の教育、とりわけ教養教育のあり方が、どのようなものであるべきかということについて、基盤研究会でディスカッションを行った。

その結果、今回の調査を以下のように総括し、次のような提言を提示することになった。

1. 教養教育の目的について

アンケートの結果から、慶應義塾大学の教員は、具体的なスキルの習得より、考える力や判断能力、コミュニケーション能力を重視している、ということが明らかになった。また、英語は、論文読解力が最も重視されており、次いで仕事で使える英語、プレゼンテーション能力となっている。

提言：日吉キャンパスにおける教養教育の目標、実践、大学で学ぶ目標設定と方法論に関する教員同士のコンセンサスが得られる機会を、教養研究センター等を通じて増やしていく

各科目の目標設定に関しては、日吉カリキュラム検討委員会やその下部の各検討部会において、理念の設定などの作業が行われており、ゆっくりではあるが着実に一定の前進を遂げている。しかしながら、部会や分野によっては意識の差の大きいところもある。目標や理念をいかに教員同士、また学生と共有化していくかということ、また、常にディスカッションを繰り返しながら、時代に沿った教育を行えるようにするということが、重要であると考ええる。

2. シラバス、講義要綱について

シラバスについては、簡略化した方がよいという考えから、もっと詳しく書くべきだという意見までかなり幅広い意見がある。また、成績評価方法を明確にすべきだという自由記述意見が目立った。一部学生が自主的に出している授業紹介冊子「リシュルート」については、消極的容認・黙認という態度が目立ったが、一部の教員は大きく問題視している。

「リシュルート」に関しては、日吉の開講授業のうち、掲載される科目が少なすぎ、掲載科目選択基準が明確でないこと、サンプル数が少なくその内容が検証されていないこと（サンプル3以上でも掲載）、アンケートに答える学生はその学期の授業の

成績をまだ取得していないにもかかわらず、成績評価に関することまで答えていること、といった多くの問題が指摘される。しかしながら、学生による授業の評価が、学生にフィードバックされない不満が、この冊子を支えているという側面があることも、教員は考えていかなければならない、というのも事実である。

シラバス、講義要綱に関しては、学生部が日吉主任や各学部の学習指導と相談しながら、電子化や内容の充実等の改革を進めている。この結果、学生の履修行動がどのようになっていくか、今後経緯を見守る必要がある。

3. 成績評価について

成績評価については、教員は、プロセス重視の評価と結果重視の評価では、結果重視と考える教員の方が多い(62%)。しかし、2005年に教養研究センターが実施した学生アンケート調査では、プロセス重視が良いという学生が多数を占めた(60%)¹⁾。教員は、成績評価のばらつきについて、現状を肯定する意見が半数以上を占め(53%)、また成績の相対評価が望ましいと考える教員は、少数であった(29%)。これらに項目に関しては、学生と教員の意識の差はあまりないと考えられる²⁾。

提言：日吉カリキュラム検討委員会による各科目の組織化が進み、授業の目的の合意を作る環境ができつつある。成績評価の方法は授業の目標によってさまざまであって良いが、目的にあった成績評価方法の指針についての合意を、日吉カリキュラム検討委員会を中心に形成していく

これは2006年度の報告書で提言したことの繰り返しではあるが、日吉カリキュラム検討委員会を中心とした各科目運営の組織化ということが進んでいる

ということが、当時とは大きな違いである。そのような機能をこの委員会と、下部の各検討部会が将来担うことができれば、今後、教員が恣意的に成績をつけているのではないか、という学生の漠然とした印象を払拭し、大学の社会的コンプライアンスを高めることにもつながるであろう。

4. クラス編制

アンケート調査では、履修要件を設けることに問題はないとする教員が圧倒的多数を占めた。また、同一レベル、目的同一のクラスが、同一のシラバスを使うべきであるかどうかについては、55%の教員がその必要はないと考えている。

提言：カリキュラム編成、クラス編成のバランスに関しても、同一科目、同系統科目の担当者間のコンセンサスを、さまざまなカリキュラムの運営に関わる学内組織で促進する

クラス編成は、授業目標、成績評価のあり方と密接に関わっている。これらについても学部共通科目に関しては、日吉カリキュラム検討委員会、また各学部に関した科目ではそれぞれの担当組織が話し合いをし、合意形成を進めていく必要がある。

5. 授業運営について

ITの活用、質問の受け方などの工夫は、教員によって個人差が非常に大きい。また、一部の教員は、熱心に工夫をしている。授業規模なども関係して、学生とコミュニケーションが取れていない場合も多いようである。

提言：授業運営や教育メソッドにおいて、教員同士の情報交流を促進できる環境を整備する。そ

1) 『2005～2006年度基盤研究報告書 慶應義塾の教育カリキュラム研究——改革への処方箋』、横浜：慶應義塾大学教養研究センター、2007年、182頁。

2) 同書、183～184頁。

のため、教員サポートなどの参加をさらに各学部、研究所などで促すように依頼し、教養研究センターでも、シンポジウムや研究会を促進していく

教養研究センターでは、すでにこうした問題に関する教員の資質の向上のために、さまざまな企画を行ってきた。これらの広報をさらに充実させ、企画を促進していくことが重要であることは、今回のアンケート調査からも明らかになった。

6. 授業評価について

教員間において、授業評価への関心は非常に高い。アンケート形式の授業評価の必要性については、多数（75%）の教員が肯定的である。しかしながら、学部で統一したアンケート調査が必要かに関しては、賛否は半々（ともに50%）、という結果であった。また、授業評価が改善につながらないという意見も根強い。

提言：フィードバックとしての授業評価は、促進して授業の改善に努めるべきである。

学生の声や考えが授業にフィードバックされるべきだということに関しては、多くの異論はないだろう。しかし、その方法論に関しては、非常にデリケートであるということがわかる。

しかし、授業の難易度、授業の分量、教員の熱意、教員の説明の分かりやすさ、授業の改善点と要望といった項目を、学生に尋ねそれを教員にフィードバックしていくことは、より良い授業を行うために有効であると思われる。

7. カリキュラム編成

学部のカリキュラム編成については、ほとんどの教員が理解していると答えている（93%）。学部共

通カリキュラム検討委員会、日吉共通カリキュラム委員会の存在は、61%の教員が知っているが、その活動内容について知っている教員は、41%と低くなる。教養研究センターのカリキュラム研究の提言について、知っている教員は45%で、半数以下であった。

教養研究センターの活動の認知は、まだそれほど進んでいない。これを解消する努力が今後必要になってくるだろう。

8. 半期制について

半期制の問題は、授業評価と並んで、カリキュラム上のデリケートな問題と考えられてきた。しかし、2005年度に通年半期制といわれる制度（科目は基本的に半期制で半期ごとに成績がつくが、履修登録等は原則春学期のみの制度）が導入され、かつての通年制度を知っている教員の69%が肯定的に評価しており、81%の教員が、現状のまま、もしくは問題点を改善しつつ維持させるべきと考えている。賛成の理由としては、学生の選択肢の増加、留学しやすさなどが、多く挙げられた。通年半期制の問題点で、最も多く挙げられたのは、秋学期に履修登録できないことである。次いで、学生が安易に授業を切るようになったことが挙げられている。

提言：通年半期制はある程度定着をしてくている。これを維持しつつ、改善する。

問題点：

積み重ね授業がやりにくい

→履修要件をつける

保険をかけて履修する学生が多い、後期のドロップアウトが多い

→秋学期の追加履修を緩和する

通年半期制は、以前の通年制に比べ相対的に卒業が容易になっているという指摘がある。1年間継続して同一授業をとらなければ、単位が取得できな

かった通年制の時代に比べると、たしかにその傾向は否定できないであろう。また、定期試験等における不正行為処分では、一般に当該科目0点、当該学期の評価を1ランク下げるといった処分が一般的であるが、半期制のおかげで1年分の評価をすべて下げられることがなくなり、処分がより軽微になったということも言える。

一方半期制は、春学期にやむを得ない事情によって学習が十分にできなかった学生に対して、秋学期の追加履修を認めることによって、学習機会を提供することができる、という利点も存在していることも事実である。

履修要件や、より高度な授業になるべく多くの学生が挑戦できる制度、必要があればより高度な学習を促進させる制度が、各科目の運営やそのカリキュラムにおける位置づけをする際に、重要なことであると考えられる。

9. 研究と教育

研究と教育の割合に関する質問では、多くの教員が、理想的には研究により多くの時間を割きたいと考えているが、実際に教育よりも比重をおいてると答えている。

提言：知のフロンティアを歩いている教員の姿を学生に見せる教育、より高度な教育を可能にするシステムを作る。法学部副専攻制度、商学部強化プログラム、経済学部研究プロジェクトなどの連携を強化する。

最近では、他大学で新人の教員を雇うときに、研究はしなくても良い。仕事は教育である、と言われるケースがあると聞く。慶應義塾大学は幸いなことに、研究と教育を両輪として大学を充実させていかなければならないという機運はまだ保たれている。しかし、半期制の導入による成績評価回数の増大、授業回数の増加など学務の負担が以前に比べ増えてきている。きめ

細かい学習指導、カリキュラム改革ということが、以前にも増して重要視されてきている。これらの変化には、社会の要請という側面もあるので、ある程度は甘受しなければならないかもしれない。

研究と教育が両輪として機能するということが、大学の生命線である。知のフロンティアを歩いている姿を学生に見せていくということが、大学教育の非常に重要な部分だとわれわれは確信する。古いノートを使い回さずに新しい授業をする教員、先端の研究をきちんとやっている教員に学生たちも魅力を感じている。このようなリサーチ大学としての水準をきちんと保っていくことも、カリキュラムの改善課題をひとつひとつこなしていくことと同様に大切なことだと思われる。教員が知のフロンティアを歩ける環境の整備が大学にとって非常に重要である。

教養教育が、広く浅い知識を多数の学生相手に伝えることであるといった、古い教養教育の考え方は、次第に払拭されつつある。多くの慶應義塾大学の教員が、考える力、価値判断能力、コミュニケーション能力をつけるということが、大学教育で一番重視されるべきである、と考えているが、これこそが学士教育4年間を見越して行うべき教養教育の本質と言っても良いだろう。

その点で、教員の専門的な知識が活かせる副専攻的なプログラムの充実、今後の各学部のプログラムの連携の強化は、そうした教養教育の理想をさらに深めるためにも非常に重要、かつ有効であると考ええる。

(執筆 佐藤 望)

第Ⅱ部

資料編

2010年度大学カリキュラムに関する教員アンケート集計結果

1. 本調査の目的

教養研究センターで基盤研究として2003年度より継続されてきた大学教育カリキュラムに関する研究の基礎データとするために、現在慶應義塾大学で行われている大学教育カリキュラムについて、慶應義塾大学の教員、大学カリキュラムに関してどのようにお考えをもっているかをアンケート調査によって明らかにする。今回の調査結果もとに、これからの大学教育を一層充実させるための提言に生かして行く。

2. 対象

慶應義塾大学において直接的または間接的に学部学士課程の教養教育や導入教育に携わっている常勤教員

日吉地区 各学部・体育研究所所属常勤教員
三田地区 各学部所属常勤教員
矢上地区 理工学部総合教育委員会委員
湘南藤沢地区 各学部所属常勤教員

3. 実施の経過

- ・2010年11月までにアンケートの素案を佐藤、木島、佐々木の幹事で作成
- ・12月14日 研究会メンバー全体で質問項目、選

択肢の検討

- ・2011年1月13日 伊藤行雄座長と佐藤望幹事で長谷山彰学務担当常任理事と面談。アンケートの趣旨と内容について説明
- ・1月17日 学内理事等懇談会にて、長谷山彰常任理事よりアンケート実施の件について提案、了承
- ・1月19日 各学部長に最終案を送り、確認を依頼
- ・2月4日 アンケート発送
- ・2月22日 締切
- ・3月7日 回答のお礼と未着の先生方に再度回答を促す手紙を発送
- ・3月26日 最終的に締め切る

4. 例外的な記入の集計について

- ・回答の記入のない項目は、欠損値（NA）として集計した
- ・選択肢にない地区からの回答1件に関しては、その1名の回答が明らかになることを避けるために欠損値（NA）として扱った。
- ・単一選択を指示している項目に、複数選択を行った回答は欠損値（NA）として集計した。

4. 実施の結果

対象者数：669 名

総回答数：204 名

回答率 30.4%

学部別、地区別のサンプル数、回答数、回答率は以下の通り

表 1 学部別回答の状況

	文学部	経済学部	法学部	商学部	医・薬学部	理工学部	総合政策・環境 情報・看護医療	体育研究所	合計
サンプル数	138	131	112	106	18	28	121	15	669
回答数	17	48	26	38	8	13	45	9	204
回答率	12.32%	36.64%	23.21%	35.85%	44.44%	46.43%	37.19%	60.00%	30.49%

表 2 地区別の回答の状況

	三田地区	日吉地区	矢上地区	湘南藤沢地区	その他	合計
サンプル数	292	252	4	120	1	669
回答数	69	88	2	44	1	204
回答率	23.63%	34.92%	50.00%	36.67%	100.00%	30.49%

アンケート依頼状および調査票

2011 年 2 月 3 日

三田地区（各学部）・日吉地区（各学部、体育研究所）
矢上地区（理工学部総合教育委員会）・湘南藤沢地区（各学部）
教員各位

常任理事 長谷山 彰
教養研究センター 所長 不破 有理
教養研究センター基盤研究座長 伊藤 行雄

大学カリキュラムに関するアンケート調査ご協力のお願い

教養研究センターでは、基盤研究として大学教育カリキュラムに関する研究を 2003 年より継続して行い、その研究を公表し提言をまとめてきました。

2010～11 年度の研究では、現在慶應義塾大学で行われている大学教育カリキュラムについて、教員の皆様がどのようにお考えかを伺うためのアンケート調査を実施することになりました。今回の調査結果を基礎データとし、これからの大学教育を一層充実させるための提言に生かしていきたいと思いをします。

アンケート対象者は、慶應義塾大学において直接的または間接的に学部学生課程の教養教育や導入教育に携わっている常勤教員の方々です

アンケートは無記名で、回答などの情報の取り扱いには万全の注意を払い、統計的に処理した上で上記の目的のためだけに用います。

回答に必要な時間は約 15 分です。ぜひご協力いただきますようお願いいたします。

記

調査票の記入について

1. 回答は該当する番号に○をしてください。質問によって回答が“複数回答可”と、“1 つだけ”を選ぶ場合がありますので、それぞれの指示に従ってお答えください。「その他」は（ ）内に具体的にお書きください。
2. 記述回答は所定の欄にお書きください。
3. 記入は質問の順番に、もれのないよう最後まで記入してください。

調査票の提出について

回答期限：2月22日(火)

回答提出先：同封の返信用封筒を使い、塾内便、または郵送でお送りください。

(切手は不要です)

問合わせ先 慶應義塾大学教養研究センター
教養研究センター事務室
電話 045-566-1151 (内線 33001)
Email: lib-arts-staff@adst.keio.ac.jp
FAX 045-566-1102

第Ⅱ部 資料編

問 9 学生は、シラバス内容を学生が理解し、シラバスを読んで履修していると思いますか。(1 つだけ)

- 問 10 あなたは、自分と関係する他の授業のシラバスを読んでいますか。(1 つだけ)

- 問 11 電子シラバスが充実した場合、冊子体のシラバスは必要だと思いますか。(1 つだけ)

- 問 12 あなたの授業はシラバスの通りに進んでいますか。(1 つだけ)

- 問 13 シラバスの形式について改善すべき点があれば、具体的にお書きください。

- 問 14 あなたは一部学生が自主的に制作している授業紹介冊子「リシュルート」を知っていますか。(1 つだけ)

- 問 15 問 14(前問)で「1. 知っている」と答えた方へ
「リシュールト」に関してどのようにお考えですか。(1 つだけ)

- #### IV. 成績評価について

- 問 16 あなたは成績評価の基準をあらかじめ明らかにしていますか。(1 つだけ)

- 2

問 17 あなたが主に教えている科目は単位がとりやすいと思いますか。(1 つだけ)

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 1. そう思う | 3. どちらかといえばそう思わない |
| 2. どちらかといえばそう思う | 4. そう思わない |

問 18 あなたが主に教えている科目は出席をとっていますか。(1 つだけ)

- | | | |
|------------|----------|---------|
| 1. 毎回とっている | 2. たまにとる | 3. とらない |
|------------|----------|---------|

問 19 あなたが主に教えている科目の成績評価は、プロセスを重視して成績をつけていますか、それとも試験などの結果重視で成績をつけていますか。(1 つだけ)

- | | |
|------------------------|----------------------|
| 1. プロセスを重視している | 3. どちらかといえば結果を重視している |
| 2. どちらかといえばプロセスを重視している | 4. 結果を重視している |

問 20 同類の授業ごとに成績評価の方法にばらつきがあることについてどう思いますか。(1 つだけ)

- | | |
|-----------------|---------------------|
| 1. 問題ない | 3. どちらかといえば改善すべきである |
| 2. 問題はありますが仕方ない | 4. ばらつきはなくすべきである |

問 21 A・B・C の人数割合をはじめから決めておく相対評価と、一定の基準に従って割合を決めない絶対評価のどちらが、より好ましいと思いますか。(1 つだけ)

- | | | | |
|---------|-----------------|-----------------|---------|
| 1. 相対評価 | 2. どちらかといえば相対評価 | 3. どちらかといえば絶対評価 | 4. 絶対評価 |
|---------|-----------------|-----------------|---------|

問 22 成績評価の基準について学生から質問されますか。(1 つだけ)

- | | | | |
|------------|--------------|--------------|---------------|
| 1. よく質問される | 2. ときどき質問される | 3. あまり質問されない | 4. ほとんど質問されない |
|------------|--------------|--------------|---------------|

問 23 成績評価の基準について学生から質問された際、どのように答えますか。(1 つだけ)

- | | |
|---------------------|------------------|
| 1. あらかじめ定めた基準を示す | 3. 基準は決めていないと答える |
| 2. だいたい基準をおおざっぱに答える | 4. 答えない |

V. クラス編成と学生レベルについて

問 24 同一レベル内の、あるいは授業内容が類似している授業は統一されたシラバス(教材・評価基準等)を用いるべきだと思いますか。(1 つだけ)

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 1. そう思う | 3. どちらかといえばそう思わない |
| 2. どちらかといえばそう思う | 4. そう思わない |

問 25 総合教育科目を体系的に学ぶために、一定の科目に履修要件(予備学習や他の科目の履修を履修の条件とすること)を設けることについてどのようにお考えですか。(1 つだけ)

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 1. 履修要件を設けても良い | 3. どちらかといえば履修要件を設けるべきでない |
| 2. 科目の目的によっては履修要件を設けても良い | 4. 履修要件を設けるべきでない |

VI. 授業運営について

問 26 授業内外でパソコンやインターネットを利用した教育を行っていますか。(1 つだけ)

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

問 27 問 26 で「1. はい」と答えた方へ

具体的に何を利用しているか以下の選択肢から選んでください。(複数回答可)

- | | | |
|----------------------|--------------------|-----------------|
| 1. keio.jp の教育支援システム | 3. 教員または授業のウェブサイト等 | 5. その他
(具体的に |
| 2. セルフラーニングサイト | 4. メーリングリスト |) |

問 28 問 26 で「1. はい」と答えた方へ

どのような目的に利用しているか以下の選択肢から選んでください(複数回答可)

- | | | |
|-------------|------------|---------|
| 1. 教材配布 | 3. レポート提出 | 5. お知らせ |
| 2. 小テスト・即レポ | 4. 掲示板・ブログ | 6. その他(|
| | |) |

問 29 授業内外で学生が質問しやすい環境を作っていますか。(1 つだけ)

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 1. そう思う | 3. どちらかといえばそう思わない |
| 2. どちらかといえばそう思う | 4. そう思わない |

問 30 不特定多数の学生が過去問や過去ノートを交換する外部のインターネット・サイトがあることを知っていますか。
(1 つだけ)

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

問 31 不特定多数の学生が外部のインターネット上で、過去問や過去ノートを利用することをどのように考えますか。
(1 つだけ)

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 1. 仕方がないので容認する | 4. 過去問ははじめから公開するべきである |
| 2. 許されない行為であることを周知させる | 5. その他 具体的に |
| 3. 授業や試験内容の工夫で対処すべきである | (|
| |) |

問 32 教授法や授業運営について具体的に、どのような工夫や勉強をしていますか。(複数回答可)

- | | |
|-------------------------|-------------|
| 1. 主に教授法についての書物で勉強している | 4. とくにしていない |
| 2. 同僚や先輩の先生の話聞いて勉強している | 5. その他 具体的に |
| 3. 講習会・講演会などに参加して勉強している | (|
| |) |

問 33 授業を理解していない学生について、どのようなケアをしていますか。(複数回答可)

- | | |
|----------------------|---------------|
| 1. オフィスアワーなどを設けている | 4. とくにケアしていない |
| 2. 電子メールでの質問を受け付けている | 5. その他 具体的に |
| 3. 補習の時間を設けている | (|
| |) |

問 34 学生に対するメンタルケアについての教員対象の講習会に、教員は参加するべきだと思いますか。(1 つだけ)

- | | |
|--------------------|-----------------|
| 1. するべきである | 3. どちらかといえば必要ない |
| 2. どちらかといえばするべきである | 4. 必要ない |

問 35 学生相談室では学生のメンタルケアを受け付けていますが、学生相談室を知っていますか。

- | | |
|---------------------|---------|
| 1. 知っている | 3. 知らない |
| 2. 名前は知っているが場所は知らない | |

Ⅶ. 授業評価について

問 36 自分の授業について、何らかの形で学生からフィードバックを受けていますか。(1 つだけ)

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 必ず受けている | 3. あまり受けていない |
| 2. だいたい受けている | 4. 受けていない |

問 37 学生アンケートなどの方法による授業評価は必要だと思いますか。(1 つだけ)

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1. 必要 | 3. どちらかといえば必要ない |
| 2. どちらかといえば必要 | 4. 必要ない |

問 38 問 37 で「必要(1 または 2)」と答えた方へ
その理由を具体的に書いてください。

問 39 問 37 で「必要ない(3 または 4)」と答えた方へ
その理由を具体的に書いてください。

問 40 学部全体で統一的な授業評価を導入すべきだと思いますか。(1 つだけ)

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1. すべきである | 3. どちらかといえばすべきでない |
| 2. どちらかといえばすべきである | 4. すべきでない |

問 41 問 40 で「すべき(1 または 2)」と答えた方へ
その理由を具体的に書いてください。

--

問 42 問 40 で「すべきでない(3 または 4)」と答えた方へ
その理由を具体的に書いてください。

--

VIII. カリキュラム編成、クラス編成について

問 43 担当科目が学部カリキュラムの中でどのように位置づけられているか知っていますか。(1 つだけ)

- | | |
|--------------|------------|
| 1. 知っている | 3. あまり知らない |
| 2. だいたい知っている | 4. 知らない |

問 44 学部のカリキュラムについてよく理解していますか。(1 つだけ)

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. よく理解している | 3. あまり理解していない |
| 2. だいたい理解している | 4. 理解していない |

問 45 他学部、研究所、センターのカリキュラムと、所属学部・研究所のカリキュラムの関係について理解していますか。(1 つだけ)

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. よく理解している | 3. あまり理解していない |
| 2. だいたい理解している | 4. 理解していない |

問 46 三田・日吉の学部共通科目についての調整を行う学部共通カリキュラム検討委員会、およびその下部組織である日吉共通カリキュラム検討委員会の存在を知っていますか。(1 つだけ)

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

問 47 学部共通カリキュラム検討委員会・日吉共通カリキュラム検討委員会の役割や活動について知っていますか。(1 つだけ)

- | | |
|--------------|------------|
| 1. 知っている | 3. あまり知らない |
| 2. だいたい知っている | 4. 知らない |

問 48 教養研究センターが、継続的に慶應義塾大学のカリキュラムについて研究し、報告書や提言を出していることを知っていますか。(1 つだけ)

- | | |
|--------------|------------|
| 1. 知っている | 3. あまり知らない |
| 2. だいたい知っている | 4. 知らない |

問 49 大学生にクラス担任は必要だと思いますか。(1 つだけ)

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1. 必要 | 3. どちらかといえば必要ない |
| 2. どちらかといえば必要 | 4. 必要ない |

問 50 担任の役割として、以下のうち、どのようなことが適当と考えられますか。(複数回答可)

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 1. 学生のプライベートな相談にのる | 5. 定期的に学生を集めて話し合いの機会を持つ |
| 2. 学生の学業に関する相談にのる | 6. 担当学生の事件・事故などの特別なときの対応 |
| 3. 学生を集めて親睦会を開く | 7. その他 具体的に |
| 4. 学生を集めて、デイキャンプなどに連れて行く | () |

Ⅸ. 半期制について

問 51 2005 年度以降三田・日吉キャンパスで、現行の通年半期制といわれる制度(科目は基本的に半期制で半期ごとに成績がつくが、履修登録等は原則春のみの制度)が導入されていますが、これについてどのように思われますか。(5 年以上在籍した方のみお答えください)(1 つだけ)

- | | |
|-------------------|-----------|
| 1. 通年半期制になって良かった | 4. 良くなかった |
| 2. どちらかといえば良かった | 5. 該当しない |
| 3. どちらかといえば良くなかった | |

問 52 現行の通年半期制で良いと思われる点は、どのような点ですか。(複数回答可)

- | | |
|--------------------|--------------------------|
| 1. 学生の単位が取りやすくなった | 6. 授業運営のメリハリがつけやすい |
| 2. 授業の選択肢が増えた | 7. カリキュラムの内容が豊富になった |
| 3. 学生が留学しやすい | 8. カリキュラムの段階的組み立てが可能になった |
| 4. 学生の再チャレンジが容易である | 9. 学生に対してきめ細かい指導が可能になった |
| 5. サバティカルが取りやすい | 10. その他 具体的に |
| | () |

問 53 現行の通年半期制で問題だと思うのは、どのような点ですか。(複数回答可)

- | | |
|-----------------------------------|---------------------------|
| 1. 成績作業が繁雑である | 6. カリキュラムの構成が学生にとってわかりにくい |
| 2. 半期で十分内容を伝えられない | 7. セット履修が多すぎあまり意味がない |
| 3. 学生が安易に授業を切ることが多くなった | 8. 学生の入れ替わりが多く関係が希薄になった |
| 4. 原則的に秋学期に履修登録ができないので半期制にした意味がない | 9. 夏休みに課題を課せられない |
| 5. 要件科目を設定しにくいので内容が希薄になった | 10. その他 具体的に |
| | () |

問 54 半期制について、今後どのようにするのが良いと思いますか。(1 つだけ)

- | | |
|----------------------------|----------------|
| 1. 秋学期履修登録を行う半期制に移行するべきである | 3. 現状のままでよい |
| 2. 問題点を改善して通年半期制を維持するべき | 4. 通年制に戻すべきである |

Ⅹ. 研究と教育の関係、その他のバランスについて

問 55 あなたは、研究と教育に、どの程度の割合の時間を割いていますか。(1 つだけ)

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1. 研究 8～9 割、教育 1～2 割 | 4. 研究 3～4 割、教育 6～7 割 |
| 2. 研究 6～7 割、教育 3～4 割 | 5. 研究 1～2 割、教育 8～9 割 |
| 3. 研究 5 割、教育 5 割 | |

問 56 大学常勤教員は本来、研究と教育に、どの程度の割合の時間を割くのが理想だと思いますか。(1 つだけ)

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1. 研究 8～9 割、教育 1～2 割 | 4. 研究 3～4 割、教育 6～7 割 |
| 2. 研究 6～7 割、教育 3～4 割 | 5. 研究 1～2 割、教育 8～9 割 |
| 3. 研究 5 割、教育 5 割 | |

問 57 あなたの所属学部・研究所の教育カリキュラムは概して妥当だと思いますか。(1 つだけ)

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 1. そう思う | 3. どちらかといえばそう思わない |
| 2. どちらかといえばそう思う | 4. そう思わない |

問 58 あなたの所属学部・研究所の教育カリキュラムは見直しが必要だと思いますか。(1 つだけ)

- 1. 大きな見直しが必要である
- 2. 一部見直しが必要である
- 3. 見直しはあまり必要ない

- 4. 見直しは必要でない
- 5. わからない

XI. 自由記述

問 59 慶應義塾大学の教育カリキュラムについてのお考えを自由に記述してください(別紙を添付して下さっても結構です)。

ご協力ありがとうございました。

集計結果クロス表

I 一般的な事項について

問1 所属

回答
選択肢: 1. 文学部 2. 経済学部 3. 法学部 4. 商学部 5. 医学部／薬学部
6. 理工学部 7. 総合政策／環境情報学部／看護医療学部 8. 体育研究所

		全体	1. 文学部	2. 経済学部	3. 法学部	4. 商学部	5. 医学部／薬学部	6. 理工学部	7. 総合政策／環境情報／看護医療	8. 体育研究所
合計		204 100.0	17 8.3	48 23.5	26 12.7	38 18.6	8 3.9	13 6.4	45 22.1	9 4.4
所属	文	17 8.3	17 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	経済	48 23.5	0 0.0	48 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	法	26 12.7	0 0.0	0 0.0	26 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	商	38 18.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	38 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	医／薬	8 3.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	8 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	理工	13 6.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	13 100.0	0 0.0	0 0.0
	総合政策／環境 情報／看護医療 体研	45 22.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	45 100.0	0 0.0	0 0.0
		9 4.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	9 100.0	0 0.0
	日吉	88 43.1	4 4.5	26 29.5	12 13.6	18 20.5	8 9.1	11 12.5	0 0.0	9 10.2
	三田	69 33.8	13 18.8	22 31.9	14 20.3	20 29.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
所属地区	矢上	2 1.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0
	湘南藤沢	44 21.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	44 100.0	0 0.0

問2 所属地区

回答
選択肢: 1. 日吉 2. 三田 3. 矢上 4. 湘南藤沢

		全体	1. 日吉	2. 三田	3. 矢上	4. 湘南藤沢	5. その他
合計		204 100.0	88 43.1	69 33.8	2 1.0	44 21.6	1 0.5
所属	文	17 8.3	4 23.5	13 76.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	経済	48 23.5	26 54.2	22 45.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	法	26 12.7	12 46.2	14 53.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	商	38 18.6	18 47.4	20 52.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	医／薬	8 3.9	8 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	理工	13 6.4	11 84.6	0 0.0	2 15.4	0 0.0	0 0.0
	総合政策／環境 情報／看護医療 体研	45 22.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	44 97.8	1 2.2
		9 4.4	9 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	日吉	88 43.1	88 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	三田	69 33.8	0 0.0	69 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
所属地区	矢上	2 1.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0
	湘南藤沢	44 21.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	44 100.0	0 0.0
	その他	1 0.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0

問3 大学における教育年数(非常勤を含む)

回答
選択肢: 1. 5年未満 2. 5～10年未満 3. 10～20年未満 4. 20～30年未満 5. 30年以上

		全体	1. 5年未満	2. 5～10年未満	3. 10～20年未満	4. 20～30年未満	5. 30年以上
合計		204 100.0	21 10.3	36 17.6	72 35.3	51 25.0	24 11.8
所属	文	17 8.3	1 5.9	2 11.8	7 41.2	5 29.4	2 11.8
	経済	48 23.5	5 10.4	7 14.6	18 37.5	9 18.8	9 18.8
	法	26 12.7	0 0.0	6 23.1	13 50.0	6 23.1	1 3.8
	商	38 18.6	5 13.2	8 21.1	12 31.6	9 23.7	4 10.5
	医／薬	8 3.9	1 12.5	1 12.5	4 50.0	1 12.5	1 12.5
	理工	13 6.4	0 0.0	1 7.7	3 23.1	6 46.2	3 23.1
	総合政策／環境 情報／看護医療 体研	45 22.1	8 17.8	11 24.4	14 31.1	10 22.2	2 4.4
		9 4.4	1 11.1	0 0.0	1 11.1	5 55.6	2 22.2
	日吉	88 43.1	8 9.1	16 18.2	34 38.6	18 20.5	12 13.6
	三田	69 33.8	5 7.2	9 13.0	24 34.8	22 31.9	9 13.0
所属地区	矢上	2 1.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0
	湘南藤沢	44 21.6	8 18.2	11 25.0	13 29.5	10 22.7	2 4.5

問4 担当科目

回答
選択肢: 1. 語学科目を主に担当し、加えて総合教育科目(教養科目)を担当している
2. 語学科目を主に担当し、総合教育科目(教養科目)は担当していない
3. 総合教育科目を主に担当している
4. 専門科目を主に担当し、加えて総合教育科目(教養科目)を担当している
5. 専門科目を主に担当し、総合教育科目(教養科目)は担当していない
6. その他

		全体	1. 語学+教養	2. 語学	3. 教養	4. 専門+教養	5. 専門	6. その他
合計		201 100.0	45 22.4	13 6.5	22 10.9	38 18.9	77 38.3	6 3.0
所属	文	17 8.5	3 17.6	0 0.0	1 5.9	8 47.1	5 29.4	0 0.0
	経済	48 23.9	13 27.1	7 14.6	5 10.4	5 10.4	18 37.5	0 0.0
	法	26 12.9	8 30.8	2 7.7	2 7.7	4 15.4	10 38.5	0 0.0
	商	37 18.4	9 24.3	0 0.0	7 18.9	3 8.1	18 48.6	0 0.0
	医／薬	7 3.5	0 0.0	3 42.9	0 0.0	0 0.0	3 42.9	1 14.3
	理工	13 6.5	9 69.2	1 7.7	1 7.7	1 7.7	1 7.7	0 0.0
	総合政策／環境 情報／看護医療 体研	45 22.4	3 6.7	0 0.0	3 6.7	17 37.8	21 46.7	1 2.2
		8 4.0	0 0.0	0 0.0	3 37.5	0 0.0	1 12.5	4 50.0
	日吉	86 42.8	42 48.8	13 15.1	18 20.9	3 3.5	5 5.8	5 5.8
	三田	68 33.8	0 0.0	0 0.0	1 1.5	17 25.0	50 73.5	0 0.0
所属地区	矢上	2 1.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0
	湘南藤沢	44 21.9	3 6.8	0 0.0	3 6.8	17 38.6	20 45.5	1 2.3

問5 総合教育科目担当経験

回答 1. これまで総合教育科目(教養科目)を担当したことがある
選択肢: 2. これまで総合教育科目(教養科目)を担当したことがない

		全体	担当あり	担当なし
合計		195 100.0	136 69.7	59 30.3
所属	文	17 8.7	15 88.2	2 11.8
	経済	47 24.1	29 61.7	18 38.3
	法	26 13.3	21 80.8	5 19.2
	商	36 18.5	22 61.1	14 38.9
	医／薬	7 3.6	3 42.9	4 57.1
	理工	13 6.7	13 100.0	0 0.0
	総合政策／環境 情報／看護医療 体研	41 21.0	27 65.9	14 34.1
		8 4.1	6 75.0	2 25.0
	日吉	84 43.1	73 86.9	11 13.1
	三田	68 34.9	34 50.0	34 50.0
所属地区	矢上	2 1.0	2 100.0	0 0.0
	湘南藤沢	40 20.5	26 65.0	14 35.0

Ⅱ. 教養教育の目的について

問6 大学で身につけて欲しい具体的な教養とはどのようなことですか。(複数回答可)

回答 1. 英語 2. 英語以外の外国語 3. 文化や歴史に関する理解
選択肢: 4. 科学・技術に関する理解 5. パソコンやインターネットが使える能力 6. 情報検索能力
7. 考える力や価値判断力 8. 人間性・人格形成 9. 倫理観 10. リーダーとなる資質
11. コミュニケーション能力 12. その他

		全体	1. 英語	2. 英語以外の外国語	3. 文化や歴史	4. 科学・技術	5. パソコンやインターネット	6. 情報検索能力	7. 考える力	8. 人間性・人格形成	9. 倫理観	10. リーダーとなる資質	11. コミュニケーション能力	12. その他
合計		204 100.0	108 52.9	72 35.3	146 71.6	110 53.9	50 24.5	63 30.9	176 86.3	80 39.2	62 30.4	38 18.6	119 58.3	15 7.4
所属	文	17 8.3	11 64.7	11 64.7	16 94.1	10 58.8	5 29.4	5 29.4	15 88.2	8 47.1	4 23.5	3 17.6	8 47.1	0 0.0
	経済	48 23.5	21 43.8	16 33.3	35 72.9	24 50.0	6 12.5	11 22.9	42 87.5	10 20.8	10 20.8	4 8.3	25 52.1	1 2.1
	法	26 12.7	16 61.5	11 42.3	16 61.5	8 30.8	6 23.1	6 23.1	22 84.6	12 46.2	6 23.1	3 11.5	18 69.2	3 11.5
	商	38 18.6	19 50.0	12 31.6	30 78.9	22 57.9	8 21.1	14 36.8	32 84.2	14 36.8	13 34.2	9 23.7	20 52.6	5 13.2
	医／薬	8 3.9	5 62.5	5 62.5	5 62.5	6 75.0	1 12.5	3 37.5	6 75.0	5 62.5	4 50.0	1 12.5	4 50.0	1 12.5
	理工	13 6.4	7 53.8	6 46.2	11 84.6	8 61.5	2 15.4	2 15.4	12 92.3	4 30.8	4 30.8	2 15.4	8 61.5	2 15.4
	総合政策／環境 情報／看護医療 体研	45 22.1	26 57.8	10 22.2	26 57.8	29 64.4	21 46.7	20 44.4	42 93.3	20 44.4	17 37.8	11 24.4	29 64.4	2 4.4
		9 4.4	3 33.3	1 11.1	7 77.8	3 33.3	1 11.1	2 22.2	5 55.6	7 77.8	4 44.4	5 55.6	7 77.8	1 11.1
	日吉	88 43.1	40 45.5	38 43.2	69 78.4	44 50.0	13 14.8	27 30.7	74 84.1	35 39.8	27 30.7	16 18.2	52 59.1	6 6.8
	三田	69 33.8	41 59.4	24 34.8	50 72.5	36 52.2	15 21.7	15 21.7	58 84.1	24 34.8	17 24.6	11 15.9	37 53.6	6 8.7
所属地区	矢上	2 1.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	2 100.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0
	湘南藤沢	44 21.6	25 56.8	10 22.7	26 59.1	28 63.6	20 45.5	20 45.5	41 93.2	20 45.5	17 38.6	11 25.0	29 65.9	1 2.3

問7. 大学において、卒業までに最低限身につけるべき英語の能力とはどのようなものだと思いますか。
(複数回答可)

回答
選択肢: 1. 英語はできなくても構わない 2. 日常会話程度 3. 仕事で使える程度
4. プレゼンテーション能力 5. ディスカッション能力 6. 英字新聞の読解力
7. 小説の読解力 8. 論文の読解力 9. 論文を書く力 10. その他

		全体	1. 英語はできなくても	2. 日常会話程度	3. 仕事で使える程度	4. プレゼンテーション能力	5. ディスカッション能力	6. 英字新聞の読解力	7. 小説の読解力	8. 論文の読解力	9. 論文を書く力	10. その他
所属	合計	204	11	41	91	88	78	76	10	101	40	4
		100.0	5.4	20.1	44.6	43.1	38.2	37.3	4.9	49.5	19.6	2.0
	文	17	1	3	7	3	6	7	4	9	5	0
		8.3	5.9	17.6	41.2	17.6	35.3	41.2	23.5	52.9	29.4	0.0
	経済	48	2	3	23	21	19	19	2	21	11	1
		23.5	4.2	6.3	47.9	43.8	39.6	39.6	4.2	43.8	22.9	2.1
	法	26	2	6	11	8	7	11	1	8	4	0
		12.7	7.7	23.1	42.3	30.8	26.9	42.3	3.8	30.8	15.4	0.0
	商	38	3	6	17	18	13	21	1	18	5	2
		18.6	7.9	15.8	44.7	47.4	34.2	55.3	2.6	47.4	13.2	5.3
所属地区	医／薬	8	0	2	5	2	3	1	1	5	1	0
		3.9	0.0	25.0	62.5	25.0	37.5	12.5	12.5	62.5	12.5	0.0
	理工	13	0	3	6	4	4	2	0	8	6	0
		6.4	0.0	23.1	46.2	30.8	30.8	15.4	0.0	61.5	46.2	0.0
	総合政策／環境 情報／看護医療 体研	45	3	14	18	27	21	12	1	28	6	0
		22.1	6.7	31.1	40.0	60.0	46.7	26.7	2.2	62.2	13.3	0.0
		9	0	4	4	5	5	3	0	4	2	1
		4.4	0.0	44.4	44.4	55.6	55.6	33.3	0.0	44.4	22.2	11.1
	日吉	88	6	13	42	34	35	33	6	37	22	2
		43.1	6.8	14.8	47.7	38.6	39.8	37.5	6.8	42.0	25.0	2.3
所属地区	三田	69	2	13	30	26	22	31	3	34	10	2
		33.8	2.9	18.8	43.5	37.7	31.9	44.9	4.3	49.3	14.5	2.9
	矢上	2	0	1	1	1	0	0	0	2	2	0
		1.0	0.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0
	湘南藤沢	44	3	13	18	27	21	12	1	27	6	0
		21.6	6.8	29.5	40.9	61.4	47.7	27.3	2.3	61.4	13.6	0.0

問8. 大学において、卒業までに最低限身につけるべき英語以外の外国語の能力とはどのようなものだと思いますか。(複数回答可)

回答
選択肢: 1. 英語以外の外国語はできなくても構わない 2. 日常会話程度 3. 仕事で使える程度
4. プレゼンテーション能力 5. ディスカッション能力 6. 英字新聞の読解力 7. 小説の読解力
8. 論文の読解力 9. 論文を書く力 10. その他

		全体	1. 英語以外の外国語はできなくても	2. 日常会話程度	3. 仕事で使える程度	4. プレゼンテーション能力	5. ディスカッション能力	6. 英字新聞の読解力	7. 小説の読解力	8. 論文の読解力	9. 論文を書く力	10. その他
所属	合計	204	43	111	37	15	10	20	7	20	4	17
		100.0	21.1	54.4	18.1	7.4	4.9	9.8	3.4	9.8	2.0	8.3
	文	17	1	9	2	1	1	3	2	4	0	1
		8.3	5.9	52.9	11.8	5.9	5.9	17.6	11.8	23.5	0.0	5.9
	経済	48	9	25	8	3	3	7	3	4	1	4
		23.5	18.8	52.1	16.7	6.3	6.3	14.6	6.3	8.3	2.1	8.3
	法	26	6	10	7	5	3	3	1	2	2	1
		12.7	23.1	38.5	26.9	19.2	11.5	11.5	3.8	7.7	7.7	3.8
	商	38	8	24	3	0	0	3	1	4	0	3
		18.6	21.1	63.2	7.9	0.0	0.0	7.9	2.6	10.5	0.0	7.9
所属地区	医／薬	8	1	2	1	1	0	1	0	2	0	2
		3.9	12.5	25.0	12.5	12.5	0.0	12.5	0.0	25.0	0.0	25.0
	理工	13	1	10	2	0	0	0	0	1	0	4
		6.4	7.7	76.9	15.4	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	0.0	30.8
	総合政策／環境 情報／看護医療 体研	45	17	26	10	3	2	3	0	3	1	0
		22.1	37.8	57.8	22.2	6.7	4.4	6.7	0.0	6.7	2.2	0.0
		9	0	5	4	2	1	0	0	0	0	2
		4.4	0.0	55.6	44.4	22.2	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	22.2
	日吉	88	11	50	17	9	6	11	6	8	2	10
		43.1	12.5	56.8	19.3	10.2	6.8	12.5	6.8	9.1	2.3	11.4
所属地区	三田	69	14	34	10	3	2	6	1	8	1	6
		33.8	20.3	49.3	14.5	4.3	2.9	8.7	1.4	11.6	1.4	8.7
	矢上	2	1	1	0	0	0	0	0	1	0	1
		1.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0
	湘南藤沢	44	16	26	10	3	2	3	0	3	1	0
		21.6	36.4	59.1	22.7	6.8	4.5	6.8	0.0	6.8	2.3	0.0

Ⅲ. 講義要綱・シラバス(以下、シラバス)について

問9. 学生は、シラバス内容を学生が理解し、シラバスを読んで履修していると思いますか。
(1つだけ)

回答 1. そう思う 2. どちらかといえばそう思う 3. どちらかといえばそう思わない 4. そう思わない
選択肢:

		全体	1. そう思う	2. どちらかといえばそう思う	3. どちらかといえばそう思わない	4. そう思わない
合計		201 100.0	19 9.5	93 46.3	64 31.8	25 12.4
所属	文	17 8.5	3 17.6	7 41.2	4 23.5	3 17.6
	経済	45 22.4	4 8.9	21 46.7	14 31.1	6 13.3
	法	26 12.9	3 11.5	11 42.3	9 34.6	3 11.5
	商	38 18.9	2 5.3	14 36.8	16 42.1	6 15.8
	医／薬	8 4.0	1 12.5	3 37.5	3 37.5	1 12.5
	理工	13 6.5	1 7.7	6 46.2	6 46.2	0 0.0
	総合政策／環境 情報／看護医療 体研	45 22.4	5 11.1	28 62.2	7 15.6	5 11.1
		9 4.5	0 0.0	3 33.3	5 55.6	1 11.1
	日吉	87 43.3	7 8.0	35 40.2	35 40.2	10 11.5
	三田	67 33.3	7 10.4	29 43.3	21 31.3	10 14.9
所属地区	矢上	2 1.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0
	湘南藤沢	44 21.9	5 11.4	27 61.4	7 15.9	5 11.4

問10. あなたは、自分と関係する他の授業のシラバスを読んでいますか。(1つだけ)

回答 1. 読んでいる 2. おおむね読んでいる 3. あまり読んでいない 4. 読んでいない
選択肢:

		全体	1. 読んでいる	2. おおむね読んでいる	3. あまり読んでいない	4. 読んでいない
合計		204 100.0	29 14.2	83 40.7	71 34.8	21 10.3
所属	文	17 8.3	2 11.8	9 52.9	5 29.4	1 5.9
	経済	48 23.5	9 18.8	18 37.5	18 37.5	3 6.3
	法	26 12.7	4 15.4	13 50.0	5 19.2	4 15.4
	商	38 18.6	7 18.4	17 44.7	13 34.2	1 2.6
	医／薬	8 3.9	0 0.0	2 25.0	4 50.0	2 25.0
	理工	13 6.4	1 7.7	5 38.5	6 46.2	1 7.7
	総合政策／環境 情報／看護医療 体研	45 22.1	5 11.1	15 33.3	17 37.8	8 17.8
		9 4.4	1 11.1	4 44.4	3 33.3	1 11.1
	日吉	88 43.1	16 18.2	34 38.6	33 37.5	5 5.7
	三田	69 33.8	8 11.6	32 46.4	21 30.4	8 11.6
所属地区	矢上	2 1.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0
	湘南藤沢	44 21.6	4 9.1	15 34.1	17 38.6	8 18.2

問11. 電子シラバスが充実した場合、冊子体のシラバスは必要だと思いますか。(1つだけ)

- 回答
選択肢: 1. 従来通りのものが必要である 2. 簡略版で十分である
3. 授業科目名と担当者名程度のもので十分である 4. 必要ない

		全体	1. 従来通りのもの	2. 簡略版	3. 授業科目名と担当者名	4. 必要ない
合計		203 100.0	45 22.2	71 35.0	26 12.8	61 30.0
所属	文	17 8.4	2 11.8	7 41.2	5 29.4	3 17.6
	経済	48 23.6	14 29.2	15 31.3	4 8.3	15 31.3
	法	26 12.8	9 34.6	10 38.5	0 0.0	7 26.9
	商	38 18.7	7 18.4	14 36.8	4 10.5	13 34.2
	医／薬	8 3.9	1 12.5	1 12.5	3 37.5	3 37.5
	理工	13 6.4	6 46.2	6 46.2	0 0.0	1 7.7
	総合政策／環境 情報／看護医療 体研	44 21.7	5 11.4	15 34.1	8 18.2	16 36.4
		9 4.4	1 11.1	3 33.3	2 22.2	3 33.3
	日吉	88 43.3	22 25.0	37 42.0	10 11.4	19 21.6
	三田	69 34.0	16 23.2	19 27.5	8 11.6	26 37.7
所属地区	矢上	2 1.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	湘南藤沢	43 21.2	5 11.6	15 34.9	8 18.6	15 34.9

問12. あなたの授業はシラバスの通りに進んでいますか。(1つだけ)

- 回答
選択肢: 1. 進んでいる 2. どちらかといえば進んでいる
3. どちらかといえば進んでいない 4. 進んでいない

		全体	1. 進んでいる	2. どちらかといえば進んでいる	3. どちらかといえば進んでいない	4. 進んでいない
合計		204 100.0	73 35.8	116 56.9	12 5.9	3 1.5
所属	文	17 8.3	6 35.3	9 52.9	1 5.9	1 5.9
	経済	48 23.5	18 37.5	25 52.1	4 8.3	1 2.1
	法	26 12.7	9 34.6	16 61.5	1 3.8	0 0.0
	商	38 18.6	14 36.8	22 57.9	1 2.6	1 2.6
	医／薬	8 3.9	4 50.0	4 50.0	0 0.0	0 0.0
	理工	13 6.4	3 23.1	7 53.8	3 23.1	0 0.0
	総合政策／環境 情報／看護医療 体研	45 22.1	17 37.8	27 60.0	1 2.2	0 0.0
		9 4.4	2 22.2	6 66.7	1 11.1	0 0.0
	日吉	88 43.1	27 30.7	51 58.0	8 9.1	2 2.3
	三田	69 33.8	28 40.6	37 53.6	3 4.3	1 1.4
所属地区	矢上	2 1.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0
	湘南藤沢	44 21.6	16 36.4	27 61.4	1 2.3	0 0.0

問14. あなたは一部学生が自主的に制作している授業紹介冊子「リシュルート」を知っていますか。
(1つだけ)

回答 1. 知っている 2. 知らない
選択肢:

		全体	1. 知っている	2. 知らない
合計		203 100.0	109 53.7	94 46.3
所属	文	17 8.4	6 35.3	11 64.7
	経済	48 23.6	32 66.7	16 33.3
	法	26 12.8	21 80.8	5 19.2
	商	38 18.7	28 73.7	10 26.3
	医／薬	8 3.9	4 50.0	4 50.0
	理工	12 5.9	8 66.7	4 33.3
	総合政策／環境 情報／看護医療 体研	45 22.2	4 8.9	41 91.1
		9 4.4	6 66.7	3 33.3
	日吉	87 42.9	71 81.6	16 18.4
	三田	69 34.0	34 49.3	35 50.7
所属地区	矢上	2 1.0	0 0.0	2 100.0
	湘南藤沢	44 21.7	4 9.1	40 90.9

問15. 問14(前問)で「1. 知っている」と答えた方へ
「リシュルート」に関してどのようにお考えですか。(1つだけ)

回答 1. 学生の自主的な活動として評価すべきである 2. シラバスの改善・工夫で対処すべきである
選択肢: 3. 仕方ないので黙認するしかない 4. 学生に利用しないように周知すべきである
5. その他具体的に

		全体	1. 自主的な活動として評価	2. 改善・工夫で対処	3. 仕方ないので黙認	4. 利用しないように周知	5. その他
合計		110 100.0	24 21.8	22 20.0	29 26.4	9 8.2	26 23.6
所属	文	6 5.5	3 50.0	0 0.0	2 33.3	0 0.0	1 16.7
	経済	32 29.1	4 12.5	7 21.9	11 34.4	5 15.6	5 15.6
	法	21 19.1	5 23.8	5 23.8	5 23.8	0 0.0	6 28.6
	商	27 24.5	5 18.5	4 14.8	7 25.9	3 11.1	8 29.6
	医／薬	4 3.6	0 0.0	0 0.0	2 50.0	0 0.0	2 50.0
	理工	8 7.3	1 12.5	1 12.5	2 25.0	1 12.5	3 37.5
	総合政策／環境 情報／看護医療 体研	6 5.5	3 50.0	2 33.3	0 0.0	0 0.0	1 16.7
		6 5.5	3 50.0	3 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	日吉	71 64.5	16 22.5	14 19.7	20 28.2	7 9.9	14 19.7
	三田	33 30.0	5 15.2	6 18.2	9 27.3	2 6.1	11 33.3
所属地区	矢上	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	湘南藤沢	6 5.5	3 50.0	2 33.3	0 0.0	0 0.0	1 16.7

Ⅲ 成績評価について

問16. あなたは成績評価の基準をあらかじめ明らかにしていますか。(1つだけ)

回答 1. シラバスで明確に公表している 2. 授業開始後公表している
 選択肢: 3. 試験の直前に公表している 4. 公表していない

		全体	1. シラバスで公表	2. 授業開始後に公表	3. 試験直前に公表	4. 公表していない
合計		204 100.0	123 60.3	62 30.4	3 1.5	16 7.8
所属	文	17 8.3	13 76.5	3 17.6	1 5.9	0 0.0
	経済	48 23.5	28 58.3	18 37.5	0 0.0	2 4.2
	法	26 12.7	13 50.0	7 26.9	1 3.8	5 19.2
	商	38 18.6	18 47.4	15 39.5	1 2.6	4 10.5
	医／薬	8 3.9	5 62.5	3 37.5	0 0.0	0 0.0
	理工	13 6.4	7 53.8	6 46.2	0 0.0	0 0.0
	総合政策／環境 情報／看護医療 体研	45 22.1	30 66.7	10 22.2	0 0.0	5 11.1
		9 4.4	9 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	日吉	88 43.1	57 64.8	29 33.0	0 0.0	2 2.3
	三田	69 33.8	35 50.7	22 31.9	3 4.3	9 13.0
所属地区	矢上	2 1.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0
	湘南藤沢	44 21.6	30 68.2	9 20.5	0 0.0	5 11.4

問17. あなたが主に教えている科目は単位がとりやすいと思いますか。(1つだけ)

回答 1. そう思う 2. どちらかといえばそう思う
 選択肢: 3. どちらかといえばそう思わない 4. そう思わない

		全体	1. そう思う	2. どちらかといえばそう思う	3. どちらかといえばそう思わない	4. そう思わない
合計		203 100.0	41 20.2	104 51.2	44 21.7	14 6.9
所属	文	17 8.4	6 35.3	6 35.3	5 29.4	0 0.0
	経済	48 23.6	9 18.8	23 47.9	10 20.8	6 12.5
	法	26 12.8	4 15.4	16 61.5	5 19.2	1 3.8
	商	38 18.7	7 18.4	16 42.1	10 26.3	5 13.2
	医／薬	8 3.9	0 0.0	5 62.5	3 37.5	0 0.0
	理工	13 6.4	1 7.7	11 84.6	1 7.7	0 0.0
	総合政策／環境 情報／看護医療 体研	44 21.7	8 18.2	25 56.8	9 20.5	2 4.5
		9 4.4	6 66.7	2 22.2	1 11.1	0 0.0
	日吉	88 43.3	19 21.6	47 53.4	20 22.7	2 2.3
	三田	69 34.0	14 20.3	30 43.5	15 21.7	10 14.5
所属地区	矢上	2 1.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0
	湘南藤沢	43 21.2	8 18.6	24 55.8	9 20.9	2 4.7

問18. あなたが主に教えている科目は出席をとっていますか。(1つだけ)

回答 1. 毎回とっている 2. たまにとる 3. とらない
選択肢:

		全体	1. 毎回	2. たまに	3. とらない
合計		203 100.0	102 50.2	39 19.2	62 30.5
所属	文	17 8.4	10 58.8	2 11.8	5 29.4
	経済	47 23.2	23 48.9	8 17.0	16 34.0
	法	26 12.8	12 46.2	5 19.2	9 34.6
	商	38 18.7	16 42.1	12 31.6	10 26.3
	医／薬	8 3.9	4 50.0	3 37.5	1 12.5
	理工	13 6.4	9 69.2	1 7.7	3 23.1
	総合政策／環境 情報／看護医療 体研	45 22.2	19 42.2	8 17.8	18 40.0
		9 4.4	9 100.0	0 0.0	0 0.0
所属地区	日吉	88 43.3	69 78.4	9 10.2	10 11.4
	三田	68 33.5	13 19.1	21 30.9	34 50.0
	矢上	2 1.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0
	湘南藤沢	44 21.7	19 43.2	8 18.2	17 38.6

問19. あなたが主に教えている科目の成績評価は、プロセスを重視して成績をつけていますか、それとも試験などの結果重視で成績をつけていますか。(1つだけ)

回答 1. プロセスを重視している 2. どちらかといえばプロセスを重視している
選択肢: 3. どちらかといえば結果を重視している 4. 結果を重視している

		全体	1. プロセス重視	2. どちらかといえばプロセス重視	3. どちらかといえば結果重視	4. 結果重視
合計		200 100.0	41 20.5	38 19.0	62 31.0	59 29.5
所属	文	17 8.5	3 17.6	3 17.6	7 41.2	4 23.5
	経済	45 22.5	7 15.6	7 15.6	13 28.9	18 40.0
	法	26 13.0	4 15.4	6 23.1	6 23.1	10 38.5
	商	38 19.0	4 10.5	10 26.3	12 31.6	12 31.6
	医／薬	8 4.0	1 12.5	0 0.0	3 37.5	4 50.0
	理工	13 6.5	4 30.8	2 15.4	5 38.5	2 15.4
	総合政策／環境 情報／看護医療 体研	44 22.0	12 27.3	8 18.2	15 34.1	9 20.5
		9 4.5	6 66.7	2 22.2	1 11.1	0 0.0
所属地区	日吉	86 43.0	24 27.9	20 23.3	27 31.4	15 17.4
	三田	68 34.0	4 5.9	9 13.2	20 29.4	35 51.5
	矢上	2 1.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0
	湘南藤沢	43 21.5	12 27.9	8 18.6	15 34.9	8 18.6

問20. 同類の授業ごとに成績評価の方法にばらつきがあることについてどう思いますか。(1つだけ)

- 回答
選択肢: 1. 問題ない 2. 問題はあるが仕方がない
3. どちらかといえば改善すべきである 4. ばらつきはなくすべきである

		全体	1. 問題ない	2. 仕方がない	3. 改善すべき	4. ばらつきをなくすべき
合計		202 100.0	55 27.2	54 26.7	72 35.6	21 10.4
所属	文	17 8.4	6 35.3	6 35.3	3 17.6	2 11.8
	経済	48 23.8	8 16.7	9 18.8	23 47.9	8 16.7
	法	26 12.9	7 26.9	10 38.5	8 30.8	1 3.8
	商	38 18.8	13 34.2	8 21.1	12 31.6	5 13.2
	医／薬	8 4.0	2 25.0	0 0.0	5 62.5	1 12.5
	理工	12 5.9	0 0.0	4 33.3	7 58.3	1 8.3
	総合政策／環境 情報／看護医療 体研	44 21.8	17 38.6	13 29.5	12 27.3	2 4.5
		9 4.5	2 22.2	4 44.4	2 22.2	1 11.1
	日吉	88 43.6	17 19.3	24 27.3	39 44.3	8 9.1
	三田	69 34.2	21 30.4	16 23.2	21 30.4	11 15.9
所属地区	矢上	1 0.5	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0
	湘南藤沢	43 21.3	16 37.2	13 30.2	12 27.9	2 4.7

問21. A・B・Cの人数割合をはじめてから決めておく相対評価と、一定の基準に従って割合を決めない絶対評価のどちらが、より好ましいと思いますか。(1つだけ)

- 回答
選択肢: 1. 相対評価 2. どちらかといえば相対評価 3. どちらかといえば絶対評価 4. 絶対評価

		全体	1. 相対評価	2. どちらかといえば相対評価	3. どちらかといえば絶対評価	4. 絶対評価
合計		203 100.0	14 6.9	46 22.7	79 38.9	64 31.5
所属	文	17 8.4	2 11.8	2 11.8	7 41.2	6 35.3
	経済	48 23.6	5 10.4	12 25.0	22 45.8	9 18.8
	法	26 12.8	3 11.5	3 11.5	13 50.0	7 26.9
	商	38 18.7	2 5.3	13 34.2	7 18.4	16 42.1
	医／薬	8 3.9	0 0.0	1 12.5	3 37.5	4 50.0
	理工	12 5.9	0 0.0	2 16.7	6 50.0	4 33.3
	総合政策／環境 情報／看護医療 体研	45 22.2	2 4.4	13 28.9	18 40.0	12 26.7
		9 4.4	0 0.0	0 0.0	3 33.3	6 66.7
	日吉	88 43.3	5 5.7	11 12.5	40 45.5	32 36.4
	三田	69 34.0	7 10.1	21 30.4	21 30.4	20 29.0
所属地区	矢上	1 0.5	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0
	湘南藤沢	44 21.7	2 4.5	13 29.5	18 40.9	11 25.0

問22. 成績評価の基準について学生から質問されますか。(1つだけ)

- 回答
選択肢: 1. よく質問される 2. ときどき質問される
3. あまり質問されない 4. ほとんど質問されない

		全体	1. よく質問される	2. ときどき質問される	3. あまり質問されない	4. ほとんど質問されない
合計		203 100.0	12 5.9	82 40.4	62 30.5	47 23.2
所属	文	17 8.4	1 5.9	5 29.4	5 29.4	6 35.3
	経済	48 23.6	5 10.4	21 43.8	13 27.1	9 18.8
	法	26 12.8	1 3.8	10 38.5	10 38.5	5 19.2
	商	38 18.7	4 10.5	13 34.2	11 28.9	10 26.3
	医／薬	7 3.4	0 0.0	2 28.6	2 28.6	3 42.9
	理工	13 6.4	0 0.0	10 76.9	2 15.4	1 7.7
	総合政策／環境	45 22.2	0 0.0	19 42.2	15 33.3	11 24.4
	情報／看護医療	9 4.4	1 11.1	2 22.2	4 44.4	2 22.2
	体研	9 4.4	1 11.1	2 22.2	4 44.4	2 22.2
	日吉	87 42.9	11 12.6	38 43.7	23 26.4	15 17.2
所属地区	三田	69 34.0	1 1.4	23 33.3	24 34.8	21 30.4
	矢上	2 1.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0
	湘南藤沢	44 21.7	0 0.0	18 40.9	15 34.1	11 25.0

問23. 成績評価の基準について学生から質問された際、どのように答えますか。(1つだけ)

- 回答
選択肢: 1. あらかじめ定めた基準を示す 2. だいたい基準をおおざっぱに答える
3. 基準は決めていないと答える 4. 答えない

		全体	1. 定めた基準を示す	2. おおざっぱに答える	3. 基準は決めていないと答える	4. 答えない
合計		204 100.0	143 70.1	56 27.5	1 0.5	4 2.0
所属	文	17 8.3	11 64.7	6 35.3	0 0.0	0 0.0
	経済	48 23.5	29 60.4	19 39.6	0 0.0	0 0.0
	法	26 12.7	18 69.2	7 26.9	1 3.8	0 0.0
	商	38 18.6	28 73.7	7 18.4	0 0.0	3 7.9
	医／薬	8 3.9	6 75.0	2 25.0	0 0.0	0 0.0
	理工	13 6.4	8 61.5	5 38.5	0 0.0	0 0.0
	総合政策／環境	45 22.1	34 75.6	10 22.2	0 0.0	1 2.2
	情報／看護医療	9 4.4	9 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	体研	9 4.4	9 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	日吉	88 43.1	68 77.3	20 22.7	0 0.0	0 0.0
所属地区	三田	69 33.8	41 59.4	24 34.8	1 1.4	3 4.3
	矢上	2 1.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0
	湘南藤沢	44 21.6	34 77.3	9 20.5	0 0.0	1 2.3

Ⅶ. クラス編成と学生レベルについて

問24 同一レベル内の、あるいは授業内容が類似している授業は統一されたシラバス（教材・評価基準等）を用いるべきだと思いますか。（1つだけ）

回答
選択肢: 1. そう思う 2. どちらかといえばそう思う 3. どちらかといえばそう思わない 4. そう思わない

		全体	1. そう思う	2. どちらかといえばそう思う	3. どちらかといえばそう思わない	4. そう思わない
合計		201 100.0	29 14.4	59 29.4	66 32.8	47 23.4
所属	文	17 8.5	3 17.6	4 23.5	5 29.4	5 29.4
	経済	47 23.4	10 21.3	18 38.3	16 34.0	3 6.4
	法	26 12.9	0 0.0	7 26.9	9 34.6	10 38.5
	商	38 18.9	6 15.8	10 26.3	10 26.3	12 31.6
	医／薬	6 3.0	2 33.3	2 33.3	1 16.7	1 16.7
	理工	13 6.5	1 7.7	4 30.8	5 38.5	3 23.1
	総合政策／環境 情報／看護医療 体研	45 22.4	6 13.3	12 26.7	15 33.3	12 26.7
		9 4.5	1 11.1	2 22.2	5 55.6	1 11.1
	日吉	86 42.8	10 11.6	29 33.7	27 31.4	20 23.3
	三田	68 33.8	13 19.1	17 25.0	24 35.3	14 20.6
所属地区	矢上	2 1.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0
	湘南藤沢	44 21.9	6 13.6	12 27.3	15 34.1	11 25.0

問25. 総合教育科目を体系的に学ぶために、一定の科目に履修要件（予備学習や他の科目の履修を履修の条件とすること）を設けることについてどのようにお考えですか。（1つだけ）

回答
選択肢: 1. 履修要件を設けても良い 2. 科目の目的によっては履修要件を設けても良い
3. どちらかといえば履修要件を設けるべきでない 4. 履修要件を設けるべきでない

		全体	1. 設けてもよい	2. 科目の目的によっては設けてもよい	3. どちらかといえば設けるべきでない	4. 設けるべきでない
合計		201 100.0	72 35.8	104 51.7	16 8.0	9 4.5
所属	文	17 8.5	9 52.9	4 23.5	1 5.9	3 17.6
	経済	47 23.4	16 34.0	24 51.1	6 12.8	1 2.1
	法	26 12.9	6 23.1	17 65.4	3 11.5	0 0.0
	商	38 18.9	16 42.1	19 50.0	2 5.3	1 2.6
	医／薬	7 3.5	2 28.6	5 71.4	0 0.0	0 0.0
	理工	13 6.5	7 53.8	6 46.2	0 0.0	0 0.0
	総合政策／環境 情報／看護医療 体研	44 21.9	15 34.1	24 54.5	2 4.5	3 6.8
		9 4.5	1 11.1	5 55.6	2 22.2	1 11.1
	日吉	87 43.3	28 32.2	49 56.3	8 9.2	2 2.3
	三田	68 33.8	28 41.2	30 44.1	6 8.8	4 5.9
所属地区	矢上	2 1.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0
	湘南藤沢	43 21.4	15 34.9	23 53.5	2 4.7	3 7.0

VI. 授業運営について

問26 授業内外でパソコンやインターネットを利用した教育を行っていますか。(1つだけ)

回答 1. はい 2. いいえ
選択肢:

		全体	1. はい	2. いいえ
合計		204 100.0	144 70.6	60 29.4
所属	文	17 8.3	8 47.1	9 52.9
	経済	48 23.5	36 75.0	12 25.0
	法	26 12.7	19 73.1	7 26.9
	商	38 18.6	29 76.3	9 23.7
	医／薬	8 3.9	4 50.0	4 50.0
	理工	13 6.4	7 53.8	6 46.2
	総合政策／環境 情報／看護医療 体研	45 22.1	36 80.0	9 20.0
		9 4.4	5 55.6	4 44.4
所属地区	日吉	88 43.1	59 67.0	29 33.0
	三田	69 33.8	47 68.1	22 31.9
	矢上	2 1.0	2 100.0	0 0.0
	湘南藤沢	44 21.6	35 79.5	9 20.5

問27. 問26で「1. はい」と答えた方へ

具体的に何を利用しているか以下の選択肢から選んでください。(複数回答可)

回答 1. keio.jpの教育支援システム 2. セルフラーニングサイト 3. 教員または授業のウェブサイト等
選択肢: 4. メーリングリスト 5. その他

		全体	1. keio.jpの教育支援システム	2. セルフラーニングサイト	3. ウェブサイト	4. メーリングリスト	5. その他
合計		144 100.0	71 49.3	8 5.6	58 40.3	60 41.7	26 18.1
所属	文	8 5.6	3 37.5	0 0.0	2 25.0	6 75.0	1 12.5
	経済	36 25.0	25 69.4	2 5.6	14 38.9	7 19.4	2 5.6
	法	19 13.2	13 68.4	0 0.0	4 21.1	11 57.9	2 10.5
	商	29 20.1	22 75.9	4 13.8	8 27.6	10 34.5	5 17.2
	医／薬	4 2.8	1 25.0	0 0.0	1 25.0	1 25.0	2 50.0
	理工	7 4.9	3 42.9	0 0.0	2 28.6	3 42.9	2 28.6
	総合政策／環境 情報／看護医療 体研	36 25.0	0 0.0	2 5.6	26 72.2	21 58.3	11 30.6
		5 3.5	4 80.0	0 0.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0
所属地区	日吉	59 41.0	39 66.1	6 10.2	14 23.7	22 37.3	10 16.9
	三田	47 32.6	31 66.0	0 0.0	17 36.2	17 36.2	4 8.5
	矢上	2 1.4	1 50.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0
	湘南藤沢	35 24.3	0 0.0	2 5.7	25 71.4	21 60.0	11 31.4

問28. 問26で「1. はい」と答えた方へ
どのような目的に利用しているか以下の選択肢から選んでください(複数回答可)

		回答 選択肢:					
		1. 教材配布 2. 小テスト・即レポ 3. レポート提出 4. 掲示板・ブログ 5. お知らせ 6. その他					
		全体	1. 教材配布	2. 小テスト・即レポ	3. レポート提出	4. 掲示板・ブログ	5. お知らせ
合計		144	103	13	61	30	70
		100.0	71.5	9.0	42.4	20.8	48.6
所属	文	8	4	1	4	2	6
	経済	36	32	2	10	5	20
	法	19	15	1	4	4	11
	商	29	19	1	15	9	9
	医／薬	20.1	65.5	3.4	51.7	31.0	31.0
	理工	4	1	1	1	0	1
	総合政策／環境	2.8	25.0	25.0	25.0	0.0	25.0
	情報／看護医療	7	4	0	2	3	3
	体研	4.9	57.1	0.0	28.6	42.9	42.9
	日吉	36	25	7	24	7	15
所属地区	三田	25.0	69.4	19.4	66.7	19.4	41.7
	矢上	5	3	0	1	0	5
	湘南藤沢	3.5	60.0	0.0	20.0	0.0	100.0
	三田	59	41	4	19	12	34
	矢上	41.0	69.5	6.8	32.2	20.3	57.6

問29. 授業内外で学生が質問をしやすい環境を作っていますか。(1つだけ)

		回答 選択肢:			
		1. そう思う 2. どちらかといえばそう思う 3. どちらかといえばそう思わない 4. そう思わない			
		全体	1. そう思う	2. どちらかといえばそう思う	3. どちらかといえばそう思わない
合計		202	83	103	15
		100.0	41.1	51.0	7.4
所属	文	16	5	9	2
	経済	7.9	31.3	56.3	12.5
	法	48	19	21	8
	商	23.8	39.6	43.8	16.7
	医／薬	26	10	14	2
	理工	12.9	38.5	53.8	7.7
	総合政策／環境	38	14	22	2
	情報／看護医療	18.8	36.8	57.9	5.3
	体研	8	3	5	0
	日吉	4.0	37.5	62.5	0.0
所属地区	三田	13	6	7	0
	矢上	6.4	46.2	53.8	0.0
	湘南藤沢	44	20	22	1
	三田	21.8	45.5	50.0	2.3
	矢上	9	6	3	0

問30. 不特定多数の学生が過去問や過去ノートを交換する外部のインターネット・サイトがあることを知っていますか。(1つだけ)

回答 1. 知っている 2. 知らない
選択肢:

		全体	1. 知っている	2. 知らない
合計		203 100.0	103 50.7	97 47.8
所属	文	16 7.9	7 43.8	9 56.3
	経済	48 23.6	35 72.9	12 25.0
	法	26 12.8	11 42.3	13 50.0
	商	38 18.7	26 68.4	12 31.6
	医／薬	8 3.9	3 37.5	5 62.5
	理工	13 6.4	4 30.8	9 69.2
	総合政策／環境 情報／看護医療 体研	45 22.2	14 31.1	31 68.9
		9 4.4	3 33.3	6 66.7
所属 地区	日吉	88 43.3	49 55.7	38 43.2
	三田	68 33.5	39 57.4	27 39.7
	矢上	2 1.0	1 50.0	1 50.0
	湘南藤沢	44 21.7	14 31.8	30 68.2

問31. 不特定多数の学生が外部のインターネット上で、過去問や過去ノートを利用することをどのように考えますか。(1つだけ)

回答 1. 仕方がないので容認する 2. 許されない行為であることを周知させる
選択肢: 3. 授業や試験内容の工夫で対処すべきである 4. 過去問ははじめてから公開するべきである 5. その他

		全体	1. 容認する	2. 周知させる	3. 授業や試験の工夫で	4. 公開すべき	5. その他
合計		198 100.0	29 14.6	12 6.1	113 57.1	28 14.1	16 8.1
所属	文	16 8.1	1 6.3	2 12.5	10 62.5	2 12.5	1 6.3
	経済	47 23.7	12 25.5	6 12.8	17 36.2	9 19.1	3 6.4
	法	25 12.6	2 8.0	1 4.0	16 64.0	1 4.0	5 20.0
	商	36 18.2	6 16.7	2 5.6	20 55.6	6 16.7	2 5.6
	医／薬	7 3.5	1 14.3	0 0.0	5 71.4	0 0.0	1 14.3
	理工	13 6.6	0 0.0	0 0.0	10 76.9	3 23.1	0 0.0
	総合政策／環境 情報／看護医療 体研	45 22.7	7 15.6	1 2.2	28 62.2	5 11.1	4 8.9
		9 4.5	0 0.0	0 0.0	7 77.8	2 22.2	0 0.0
所属 地区	日吉	86 43.4	8 9.3	5 5.8	57 66.3	11 12.8	5 5.8
	三田	65 32.8	14 21.5	6 9.2	27 41.5	11 16.9	7 10.8
	矢上	2 1.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0
	湘南藤沢	44 22.2	6 13.6	1 2.3	28 63.6	5 11.4	4 9.1

問32. 教授法や授業運営について具体的に、どのような工夫や勉強をしていますか。
(複数回答可)

回答
選択肢: 1. 主に教授法についての書物で勉強している 2. 同僚や先輩の先生の話聞いて勉強している
3. 講習会・講演会などに参加して勉強している 4. とくにしていない 5. その他

		全体	1. 教授法についての書物	2. 同僚や先輩の先生の話	3. 講習会・講演会	4. とくにしていない	5. その他
合計		204 100.0	58 28.4	112 54.9	38 18.6	50 24.5	19 9.3
所属	文	17 8.3	5 29.4	8 47.1	1 5.9	5 29.4	2 11.8
	経済	48 23.5	13 27.1	28 58.3	8 16.7	13 27.1	2 4.2
	法	26 12.7	8 30.8	14 53.8	7 26.9	8 30.8	1 3.8
	商	38 18.6	10 26.3	26 68.4	5 13.2	5 13.2	4 10.5
	医／薬	8 3.9	2 25.0	2 25.0	2 25.0	3 37.5	2 25.0
	理工	13 6.4	3 23.1	7 53.8	2 15.4	3 23.1	3 23.1
	総合政策／環境 情報／看護医療 体研	45 22.1	9 20.0	22 48.9	7 15.6	13 28.9	5 11.1
		9 4.4	8 88.9	5 55.6	6 66.7	0 0.0	0 0.0
所属地区	日吉	88 43.1	37 42.0	58 65.9	26 29.5	12 13.6	6 6.8
	三田	69 33.8	12 17.4	31 44.9	5 7.2	25 36.2	7 10.1
	矢上	2 1.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0
	湘南藤沢	44 21.6	9 20.5	22 50.0	7 15.9	13 29.5	5 11.4

問33. 授業を理解していない学生について、どのようなケアをしていますか。
(複数回答可)

回答
選択肢: 1. オフィスアワーなどを設けている 2. 電子メールでの質問を受け付けている
3. 補習の時間を設けている 4. とくにケアしていない 5. その他

		全体	1. オフィスアワー	2. 電子メール	3. 補習の時間	4. 特にケアしていない	5. その他
合計		204 100.0	66 32.4	83 40.7	10 4.9	73 35.8	28 13.7
所属	文	17 8.3	8 47.1	5 29.4	1 5.9	6 35.3	1 5.9
	経済	48 23.5	18 37.5	18 37.5	2 4.2	17 35.4	9 18.8
	法	26 12.7	5 19.2	14 53.8	3 11.5	12 46.2	2 7.7
	商	38 18.6	6 15.8	11 28.9	1 2.6	14 36.8	8 21.1
	医／薬	8 3.9	1 12.5	3 37.5	0 0.0	4 50.0	2 25.0
	理工	13 6.4	4 30.8	6 46.2	0 0.0	4 30.8	1 7.7
	総合政策／環境 情報／看護医療 体研	45 22.1	23 51.1	23 51.1	3 6.7	12 26.7	2 4.4
		9 4.4	1 11.1	3 33.3	0 0.0	4 44.4	3 33.3
所属地区	日吉	88 43.1	24 27.3	39 44.3	4 4.5	28 31.8	19 21.6
	三田	69 33.8	19 27.5	19 27.5	3 4.3	33 47.8	6 8.7
	矢上	2 1.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0
	湘南藤沢	44 21.6	23 52.3	23 52.3	2 4.5	12 27.3	2 4.5

問34. 学生に対するメンタルケアについての教員対象の講習会に、
教員は参加するべきだと思いますか。(1つだけ)

回答 1. するべきである 2. どちらかといえばするべきである
選択肢: 3. どちらかといえば必要ない 4. 必要ない

		全体	1. するべき	2. どちらかといえばするべき	3. どちらかといえば不要	4. 必要ない
合計		200 100.0	43 21.5	92 46.0	44 22.0	21 10.5
所属	文	16 8.0	3 1.5	6 3.0	6 3.0	1 0.5
	経済	47 23.5	11 5.5	21 10.5	7 3.5	8 4.0
	法	26 13.0	3 1.5	10 5.0	10 5.0	3 1.5
	商	37 18.5	13 6.5	19 9.5	2 1.0	3 1.5
	医／薬	7 3.5	1 0.5	4 2.0	2 1.0	0 0.0
	理工	13 6.5	4 2.0	5 2.5	3 1.5	1 0.5
	総合政策／環境 情報／看護医療 体研	45 22.5	7 3.5	23 11.5	10 5.0	5 2.5
		9 4.5	1 0.5	4 2.0	4 2.0	0 0.0
		4.5 2.25	11.1 5.55	44.4 22.2	44.4 22.2	0.0 0.0
		87 43.5	20 10.0	43 21.5	18 9.0	6 3.0
所属地区	三田	66 33.0	15 7.5	25 12.5	16 8.0	10 5.0
	矢上	2 1.0	1 0.5	1 0.5	0 0.0	0 0.0
	湘南藤沢	44 22.0	7 3.5	22 11.0	10 5.0	5 2.5
		22.0 11.0	15.9 7.95	50.0 25.0	22.7 11.35	11.4 5.7

問35. 学生相談室では学生のメンタルケアを受け付けていますが、学生相談室を知っていますか。

回答 1. 知っている 2. 名前は知っているが場所は知らない 3. 知らない
選択肢:

		全体	1. 知っている	2. 場所は知らない	3. 知らない
合計		203 100.0	169 83.3	24 11.8	10 4.9
所属	文	16 7.9	15 73.8	1 4.7	0 0.0
	経済	48 23.6	39 81.3	8 16.7	1 0.5
	法	26 12.8	19 73.1	6 23.1	1 0.5
	商	38 18.7	36 94.7	2 5.3	0 0.0
	医／薬	8 3.9	8 100.0	0 0.0	0 0.0
	理工	13 6.4	13 100.0	0 0.0	0 0.0
	総合政策／環境 情報／看護医療 体研	45 22.2	31 68.9	7 15.6	7 15.6
		9 4.4	8 88.9	0 0.0	1 11.1
		4.4 2.2	88.9 44.45	0.0 0.0	11.1 5.55
		88 43.3	82 93.2	5 5.7	1 1.1
所属地区	三田	68 33.5	54 79.4	12 17.6	2 2.9
	矢上	2 1.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0
	湘南藤沢	44 21.7	30 68.2	7 15.9	7 15.9

VII. 授業評価について

問36. 自分の授業について、何らかの形で学生からフィードバックを受けていますか。(1つだけ)

回答
選択肢: 1. 必ず受けている 2. だいたい受けている
3. あまり受けていない 4. 受けていない

		全体	1. 必ず受けている	2. だいたい受けている	3. あまり受けていない	4. 受けていない
合計		200 100.0	87 43.5	59 29.5	34 17.0	20 10.0
所属	文	15 7.5	4 26.7	3 20.0	4 26.7	4 26.7
	経済	47 23.5	13 27.7	14 29.8	13 27.7	7 14.9
	法	26 13.0	5 19.2	12 46.2	8 30.8	1 3.8
	商	38 19.0	12 31.6	11 28.9	7 18.4	8 21.1
	医／薬	8 4.0	5 62.5	3 37.5	0 0.0	0 0.0
	理工	13 6.5	10 76.9	3 23.1	0 0.0	0 0.0
	総合政策／環境 情報／看護医療 体研	44 22.0	31 70.5	11 25.0	2 4.5	0 0.0
		9 4.5	7 77.8	2 22.2	0 0.0	0 0.0
	日吉	88 44.0	42 47.7	29 33.0	12 13.6	5 5.7
	三田	66 33.0	13 19.7	18 27.3	20 30.3	15 22.7
所属地区	矢上	2 1.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0
	湘南藤沢	43 21.5	30 69.8	11 25.6	2 4.7	0 0.0

問37. 学生アンケートなどの方法による授業評価は必要だと思いますか。(1つだけ)

回答
選択肢: 1. 必要 2. どちらかといえば必要 3. どちらかといえば必要ない 4. 必要ない

		全体	1. 必要	2. どちらかといえば必要	3. どちらかといえば必要ない	4. 必要ない
合計		203 100.0	77 37.9	76 37.4	33 16.3	17 8.4
所属	文	16 7.9	3 18.8	4 25.0	5 31.3	4 25.0
	経済	48 23.6	19 39.6	16 33.3	7 14.6	6 12.5
	法	26 12.8	7 26.9	11 42.3	5 19.2	3 11.5
	商	38 18.7	10 26.3	16 42.1	9 23.7	3 7.9
	医／薬	8 3.9	2 25.0	5 62.5	0 0.0	1 12.5
	理工	13 6.4	5 38.5	5 38.5	3 23.1	0 0.0
	総合政策／環境 情報／看護医療 体研	45 22.2	26 57.8	15 33.3	4 8.9	0 0.0
		9 4.4	5 55.6	4 44.4	0 0.0	0 0.0
	日吉	88 43.3	31 35.2	38 43.2	14 15.9	5 5.7
	三田	68 33.5	19 27.9	22 32.4	15 22.1	12 17.6
所属地区	矢上	2 1.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0
	湘南藤沢	44 21.7	26 59.1	14 31.8	4 9.1	0 0.0

問40. 学部全体で統一した授業評価を導入すべきだと思いますか。(1つだけ)

- 回答
選択肢: 1. するべきである 2. どちらかといえばするべきである
3. どちらかといえばするべきでない 4. するべきでない

		全体	1. するべき	2. どちらかといえばするべき	3. どちらかといえばするべきでない	4. するべきでない
合計		197 100.0	33 16.8	65 33.0	60 30.5	39 19.8
所属	文	16 8.1	1 6.3	4 25.0	5 31.3	6 37.5
	経済	46 23.4	6 13.0	19 41.3	13 28.3	8 17.4
	法	26 13.2	3 11.5	7 26.9	12 46.2	4 15.4
	商	38 19.3	5 13.2	9 23.7	15 39.5	9 23.7
	医／薬	6 3.0	1 16.7	3 50.0	2 33.3	0 0.0
	理工	12 6.1	2 16.7	4 33.3	1 8.3	5 41.7
	総合政策／環境 情報／看護医療 体研	45 22.8	14 31.1	16 35.6	10 22.2	5 11.1
		8 4.1	1 12.5	3 37.5	2 25.0	2 25.0
	日吉	83 42.1	8 9.6	31 37.3	28 33.7	16 19.3
所属地区	三田	67 34.0	11 16.4	17 25.4	22 32.8	17 25.4
	矢上	2 1.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0
	湘南藤沢	44 22.3	14 31.8	16 36.4	9 20.5	5 11.4

VIII. カリキュラム編成、クラス編成について

問43. 担当科目が学部カリキュラムの中でどのように位置づけられているか知っていますか。(1つだけ)

- 回答
選択肢: 1. 知っている 2. だいたい知っている 3. あまり知らない 4. 知らない

		全体	1. 知っている	2. だいたい知っている	3. あまり知らない	4. 知らない
合計		200 100.0	136 68.0	50 25.0	8 4.0	6 3.0
所属	文	15 7.5	12 80.0	1 6.7	1 6.7	1 6.7
	経済	48 24.0	35 72.9	13 27.1	0 0.0	0 0.0
	法	25 12.5	18 72.0	6 24.0	1 4.0	0 0.0
	商	38 19.0	25 65.8	10 26.3	2 5.3	1 2.6
	医／薬	8 4.0	7 87.5	1 12.5	0 0.0	0 0.0
	理工	13 6.5	11 84.6	2 15.4	0 0.0	0 0.0
	総合政策／環境 情報／看護医療 体研	44 22.0	24 54.5	14 31.8	3 6.8	3 6.8
		9 4.5	4 44.4	3 33.3	1 11.1	1 11.1
	日吉	87 43.5	60 69.0	23 26.4	3 3.4	1 1.1
所属地区	三田	67 33.5	50 74.6	13 19.4	2 3.0	2 3.0
	矢上	2 1.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	湘南藤沢	43 21.5	23 53.5	14 32.6	3 7.0	3 7.0

問44. 学部のカリキュラムについてよく理解していますか。(1つだけ)

回答
選択肢: 1. よく理解している 2. だいたい理解している
3. あまり理解していない 4. 理解していない

		全体	1. よく理解	2. だいたい理解	3. あまり理解していない	4. 理解していない
合計		200 100.0	51 25.5	118 59.0	25 12.5	6 3.0
所属	文	15 7.5	5 33.3	6 40.0	3 20.0	1 6.7
	経済	48 24.0	10 20.8	34 70.8	4 8.3	0 0.0
	法	25 12.5	5 20.0	16 64.0	3 12.0	1 4.0
	商	37 18.5	8 21.6	20 54.1	8 21.6	1 2.7
	医／薬	8 4.0	4 50.0	4 50.0	0 0.0	0 0.0
	理工	13 6.5	6 46.2	7 53.8	0 0.0	0 0.0
	総合政策／環境 情報／看護医療 体研	45 22.5	13 28.9	27 60.0	3 6.7	2 4.4
		9 4.5	0 0.0	4 44.4	4 44.4	1 11.1
	日吉	87 43.5	20 23.0	53 60.9	13 14.9	1 1.1
	三田	66 33.0	17 25.8	37 56.1	9 13.6	3 4.5
所属地区	矢上	2 1.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0
	湘南藤沢	44 22.0	13 29.5	26 59.1	3 6.8	2 4.5

問45. 他学部、研究所、センターのカリキュラムと、所属学部・研究所のカリキュラムの関係について理解していますか。(1つだけ)

回答
選択肢: 1. よく理解している 2. だいたい理解している
3. あまり理解していない 4. 理解していない

		全体	1. よく理解	2. だいたい理解	3. あまり理解していない	4. 理解していない
合計		202 100.0	19 9.4	72 35.6	84 41.6	27 13.4
所属	文	16 7.9	1 6.3	7 43.8	5 31.3	3 18.8
	経済	48 23.8	5 10.4	21 43.8	17 35.4	5 10.4
	法	25 12.4	1 4.0	4 16.0	18 72.0	2 8.0
	商	38 18.8	4 10.5	15 39.5	15 39.5	4 10.5
	医／薬	8 4.0	2 25.0	3 37.5	3 37.5	0 0.0
	理工	13 6.4	1 7.7	6 46.2	4 30.8	2 15.4
	総合政策／環境 情報／看護医療 体研	45 22.3	4 8.9	12 26.7	19 42.2	10 22.2
		9 4.5	1 11.1	4 44.4	3 33.3	1 11.1
	日吉	87 43.1	8 9.2	40 46.0	35 40.2	4 4.6
	三田	68 33.7	7 10.3	20 29.4	30 44.1	11 16.2
所属地区	矢上	2 1.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0
	湘南藤沢	44 21.8	4 9.1	12 27.3	18 40.9	10 22.7

問46. 三田・日吉の学部共通科目についての調整を行う学部共通カリキュラム検討委員会、およびその下部組織である日吉共通カリキュラム検討委員会の存在を知っていますか。(1つだけ)

回答
選択肢: 1. 知っている 2. 知らない

		全体	1. 知っている	2. 知らない
合計		201 100.0	122 60.7	79 39.3
所属	文	16 8.0	13 81.3	3 18.8
	経済	47 23.4	32 68.1	15 31.9
	法	25 12.4	15 60.0	10 40.0
	商	38 18.9	30 78.9	8 21.1
	医／薬	8 4.0	7 87.5	1 12.5
	理工	13 6.5	12 92.3	1 7.7
	総合政策／環境 情報／看護医療 体研	45 22.4	5 11.1	40 88.9
		9 4.5	8 88.9	1 11.1
	日吉	86 42.8	76 88.4	10 11.6
	三田	68 33.8	40 58.8	28 41.2
所属地区	矢上	2 1.0	1 50.0	1 50.0
	湘南藤沢	44 21.9	5 11.4	39 88.6

問47. 学部共通カリキュラム検討委員会・日吉共通カリキュラム検討委員会の役割や活動について知っていますか。(1つだけ)

回答
選択肢: 1. 知っている 2. だいたい知っている 3. あまり知らない 4. 知らない

		全体	1. 知っている	2. だいたい知っている	3. あまり知らない	4. 知らない
合計		201 100.0	25 12.4	58 28.9	50 24.9	68 33.8
所属	文	16 8.0	2 12.5	5 31.3	7 43.8	2 12.5
	経済	47 23.4	6 12.8	18 38.3	9 19.1	14 29.8
	法	25 12.4	4 16.0	4 16.0	6 24.0	11 44.0
	商	38 18.9	5 13.2	14 36.8	12 31.6	7 18.4
	医／薬	8 4.0	3 37.5	1 12.5	3 37.5	1 12.5
	理工	13 6.5	4 30.8	8 61.5	0 0.0	1 7.7
	総合政策／環境 情報／看護医療 体研	45 22.4	0 0.0	2 4.4	13 28.9	30 66.7
		9 4.5	1 11.1	6 66.7	0 0.0	2 22.2
	日吉	86 42.8	17 19.8	41 47.7	17 19.8	11 12.8
	三田	68 33.8	7 10.3	15 22.1	20 29.4	26 38.2
所属地区	矢上	2 1.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0
	湘南藤沢	44 21.9	0 0.0	2 4.5	12 27.3	30 68.2

問48. 教養研究センターが、継続的に慶應義塾大学のカリキュラムについて研究し、
報告書や提言を出していることを知っていますか。(1つだけ)

回答
選択肢: 1. 知っている 2. だいたい知っている 3. あまり知らない 4. 知らない

		全体	1. 知っている	2. だいたい知っている	3. あまり知らない	4. 知らない
合計		201 100.0	60 29.9	36 17.9	47 23.4	58 28.9
所属	文	16 8.0	7 43.8	1 6.3	6 37.5	2 12.5
	経済	47 23.4	15 31.9	10 21.3	11 23.4	11 23.4
	法	25 12.4	8 32.0	3 12.0	8 32.0	6 24.0
	商	38 18.9	12 31.6	10 26.3	8 21.1	8 21.1
	医／薬	8 4.0	3 37.5	3 37.5	0 0.0	2 25.0
	理工	13 6.5	7 53.8	4 30.8	0 0.0	2 15.4
	総合政策／環境 情報／看護医療 体研	45 22.4	2 4.4	3 6.7	14 31.1	26 57.8
		9 4.5	6 66.7	2 22.2	0 0.0	1 11.1
	日吉	87 43.3	45 51.7	25 28.7	11 12.6	6 6.9
	三田	67 33.3	13 19.4	8 11.9	22 32.8	24 35.8
所属地区	矢上	2 1.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0
	湘南藤沢	44 21.9	2 4.5	3 6.8	14 31.8	25 56.8

問49. 大学生にクラス担任は必要だと思いますか。(1つだけ)

回答
選択肢: 1. 必要 2. どちらかといえば必要 3. どちらかといえば必要ない 4. 必要ない

		全体	1. 必要	2. どちらかといえば必要	3. どちらかといえば必要ない	4. 必要ない
合計		199 100.0	42 21.1	64 32.2	54 27.1	39 19.6
所属	文	15 7.5	5 33.3	3 20.0	5 33.3	2 13.3
	経済	46 23.1	10 21.7	13 28.3	14 30.4	9 19.6
	法	25 12.6	5 20.0	6 24.0	10 40.0	4 16.0
	商	38 19.1	5 13.2	15 39.5	5 13.2	13 34.2
	医／薬	8 4.0	5 62.5	2 25.0	1 12.5	0 0.0
	理工	13 6.5	7 53.8	2 15.4	3 23.1	1 7.7
	総合政策／環境 情報／看護医療 体研	45 22.6	2 4.4	20 44.4	15 33.3	8 17.8
		9 4.5	3 33.3	3 33.3	1 11.1	2 22.2
	日吉	87 43.7	23 26.4	25 28.7	21 24.1	18 20.7
	三田	65 32.7	15 23.1	19 29.2	18 27.7	13 20.0
所属地区	矢上	2 1.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	湘南藤沢	44 22.1	2 4.5	20 45.5	14 31.8	8 18.2

問50. 担任の役割として、以下のうち、どのようなことが適当と考えられますか。(複数回答可)

- 回答
選択肢:
1. 学生のプライベートな相談にのる 2. 学生の学業に関する相談にのる
3. 学生を集めて親睦会を開く 4. 学生を集めて、デイキャンプなどに連れて行く
5. 定期的に学生を集めて話し合いの機会を持つ
6. 担当学生の事件・事故などの特別なときの対応 7. その他

		全体	1. プライベートな相談	2. 学業に関する相談	3. 親睦会	4. デイキャンプ等	5. 話し合いの機会	6. 特別なときの対応	7. その他
合計		204 100.0	64 31.4	122 59.8	21 10.3	4 2.0	27 13.2	78 38.2	21 10.3
所属	文	17 8.3	6 35.3	12 70.6	1 5.9	0 0.0	1 5.9	8 47.1	1 5.9
	経済	48 23.5	14 29.2	31 64.6	6 12.5	1 2.1	7 14.6	20 41.7	4 8.3
	法	26 12.7	7 26.9	12 46.2	2 7.7	0 0.0	0 0.0	15 57.7	2 7.7
	商	38 18.6	12 31.6	18 47.4	1 2.6	1 2.6	5 13.2	14 36.8	8 21.1
	医／薬	8 3.9	3 37.5	5 62.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5 62.5	0 0.0
	理工	13 6.4	3 23.1	9 69.2	3 23.1	0 0.0	0 0.0	3 23.1	2 15.4
	総合政策／環境 情報／看護医療 体研	45 22.1	14 31.1	30 66.7	6 13.3	2 4.4	9 20.0	9 20.0	3 6.7
		9 4.4	5 55.6	5 55.6	2 22.2	0 0.0	5 55.6	4 44.4	1 11.1
	日吉	88 43.1	32 36.4	58 65.9	10 11.4	1 1.1	10 11.4	40 45.5	11 12.5
	三田	69 33.8	16 23.2	33 47.8	5 7.2	1 1.4	8 11.6	28 40.6	7 10.1
所属地区	矢上	2 1.0	2 100.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0
	湘南藤沢	44 21.6	14 31.8	29 65.9	6 13.6	2 4.5	9 20.5	8 18.2	3 6.8

Ⅷ. 半期制について

問51. 2005年度以降三田・日吉キャンパスで、現行の通年半期制といわれる制度(科目は基本的に半期制で半期ごとに成績がつくが、履修登録等は原則春のみの制度)が導入されていますが、これについてどのように思われますか。(5年以上在籍した方のみお答えください)(1つだけ)

- 回答
選択肢:
1. 通年半期制になって良かった 2. どちらかといえば良かった
3. どちらかといえば良くなかった 4. 良くなかった 5. 該当しない

		全体	1. 良かった	2. どちらかといえば良かった	3. どちらかといえば良くなかった	4. 良くなかった	5. 該当しない
合計		163 100.0	37 22.7	57 35.0	21 12.9	19 11.7	28 17.2
所属	文	13 8.0	3 23.1	4 30.8	2 15.4	3 23.1	1 7.7
	経済	40 24.5	9 22.5	19 47.5	4 10.0	4 10.0	4 10.0
	法	23 14.1	7 30.4	7 30.4	4 17.4	2 8.7	3 13.0
	商	34 20.9	6 17.6	12 35.3	9 26.5	3 8.8	4 11.8
	医／薬	6 3.7	1 16.7	1 16.7	2 33.3	1 16.7	1 16.7
	理工	12 7.4	3 25.0	6 50.0	0 0.0	2 16.7	1 8.3
	総合政策／環境 情報／看護医療 体研	28 17.2	6 21.4	5 17.9	0 0.0	3 10.7	13 46.4
		7 4.3	2 28.6	3 42.9	0 0.0	1 14.3	1 14.3
	日吉	74 45.4	13 17.6	29 39.2	14 18.9	8 10.8	10 13.5
	三田	59 36.2	18 30.5	22 37.3	7 11.9	8 13.6	4 6.8
所属地区	矢上	2 1.2	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0
	湘南藤沢	27 16.6	6 22.2	4 14.8	0 0.0	3 11.1	13 48.1

問52. 現行の通年半期制で良いと思われる点は、どのような点ですか。(複数回答可)

- 回答
選択肢:
1. 学生の単位が取りやすくなった 2. 授業の選択肢が増えた 3. 学生が留学しやすい
4. 学生の再チャレンジが容易である 5. サバディカルが取りやすい 6. 授業運営のメリハリがつけやすい
7. カリキュラムの内容が豊富になった 8. カリキュラムの段階的組み立てが可能になった
9. 学生に対してきめ細かい指導が可能になった 10. その他

		全体	1. 単位が取りやすい	2. 選択肢が増えた	3. 留学しやすい	4. 再チャレンジが容易	5. サバディカル	6. メリハリ	7. 内容が豊富	8. 段階的組み立て	9. きめ細かい指導	10. その他
合計		204 100.0	41 20.1	73 35.8	79 38.7	37 18.1	21 10.3	59 28.9	22 10.8	16 7.8	9 4.4	6 2.9
所属 地区	文	17 8.3	3 17.6	7 41.2	7 41.2	2 11.8	0 0.0	5 29.4	4 23.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	経済	48 23.5	12 25.0	16 33.3	24 50.0	10 20.8	8 16.7	18 37.5	4 8.3	6 12.5	2 4.2	2 4.2
	法	26 12.7	5 19.2	9 34.6	16 61.5	10 38.5	3 11.5	8 30.8	3 11.5	1 3.8	3 11.5	0 0.0
	商	38 18.6	7 18.4	15 39.5	16 42.1	5 13.2	5 13.2	11 28.9	1 2.6	5 13.2	2 5.3	0 0.0
	医／薬	8 3.9	2 25.0	1 12.5	2 25.0	2 25.0	0 0.0	1 12.5	1 12.5	0 0.0	0 0.0	1 12.5
	理工	13 6.4	1 7.7	6 46.2	1 7.7	0 0.0	0 0.0	4 30.8	2 15.4	1 7.7	0 0.0	2 15.4
	総合政策／環境 情報／看護医療 体研	45 22.1	7 15.6	13 28.9	11 24.4	8 17.8	5 11.1	9 20.0	5 11.1	3 6.7	1 2.2	1 2.2
		9 4.4	4 44.4	6 66.7	2 22.2	0 0.0	0 0.0	3 33.3	2 22.2	0 0.0	1 11.1	0 0.0
	日吉	88 43.1	18 20.5	33 37.5	39 44.3	14 15.9	4 4.5	24 27.3	11 12.5	8 9.1	3 3.4	2 2.3
	三田	69 33.8	16 23.2	27 39.1	29 42.0	15 21.7	12 17.4	26 37.7	6 8.7	5 7.2	5 7.2	2 2.9
所属 地区	矢上	2 1.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0
	湘南藤沢	44 21.6	7 15.9	12 27.3	11 25.0	8 18.2	5 11.4	9 20.5	5 11.4	3 6.8	1 2.3	1 2.3

問53. 現行の通年半期制で問題だと思うのは、どのような点ですか。(複数回答可)

- 回答
選択肢:
1. 成績作業が繁雑である 2. 半期で十分内容を伝えられない 3. 学生が安易に授業を切ることが多くなった
4. 原則的に秋学期に履修登録ができないので半期制にした意味がない
5. 要件科目を設定しにくいので内容が希薄になった 6. カリキュラムの構成が学生にとってわかりにくい
7. セット履修が多すぎあまり意味がない 8. 学生の入替わりが多く関係が希薄になった
9. 夏休みに課題を課せられない 10. その他

		全体	1. 成績作業が繁雑	2. 内容が伝えられない	3. 授業切り	4. 半期制の意味がない	5. 内容が希薄	6. カリキュラムが分かりにくい	7. セット履修が多すぎ	8. 学生との関係が希薄	9. 夏休みの課題	10. その他
合計		204 100.0	29 14.2	34 16.7	49 24.0	83 40.7	10 4.9	16 7.8	33 16.2	7 3.4	29 14.2	9 4.4
所属 地区	文	17 8.3	3 17.6	4 23.5	3 17.6	7 41.2	6 35.3	0 0.0	4 23.5	2 11.8	6 35.3	0 0.0
	経済	48 23.5	6 12.5	13 27.1	11 22.9	24 50.0	2 4.2	7 14.6	17 35.4	2 4.2	8 16.7	5 10.4
	法	26 12.7	7 26.9	7 26.9	5 19.2	13 50.0	1 3.8	2 7.7	3 11.5	0 0.0	2 7.7	2 7.7
	商	38 18.6	9 23.7	3 7.9	15 39.5	23 60.5	1 2.6	4 10.5	5 13.2	0 0.0	8 21.1	0 0.0
	医／薬	8 3.9	0 0.0	0 0.0	2 25.0	4 50.0	0 0.0	0 0.0	1 12.5	0 0.0	1 12.5	0 0.0
	理工	13 6.4	2 15.4	2 15.4	2 15.4	5 38.5	0 0.0	2 15.4	2 15.4	0 0.0	3 23.1	1 7.7
	総合政策／環境 情報／看護医療 体研	45 22.1	2 4.4	3 6.7	6 13.3	2 4.4	0 0.0	1 2.2	0 0.0	1 2.2	1 2.2	1 2.2
		9 4.4	0 0.0	2 22.2	5 55.6	5 55.6	0 0.0	0 0.0	1 11.1	2 22.2	0 0.0	0 0.0
	日吉	88 43.1	20 22.7	19 21.6	21 23.9	50 56.8	3 3.4	10 11.4	19 21.6	4 4.5	18 20.5	3 3.4
	三田	69 33.8	7 10.1	12 17.4	22 31.9	31 44.9	7 10.1	5 7.2	14 20.3	2 2.9	10 14.5	5 7.2
所属 地区	矢上	2 1.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	湘南藤沢	44 21.6	2 4.5	3 6.8	5 11.4	2 4.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 2.3	1 2.3	1 2.3

問54. 半期制について、今後どのようにするのが良いと思いますか。(1つだけ)

回答 1. 秋学期履修登録を行う半期制に移行するべきである 2. 問題点を改善して通年半期制を維持するべき
選択肢: 3. 現状のままでよい 4. 通年制に戻すべきである

		全体	1. 完全半期制に	2. 問題点を改善	3. 現状のまま	4. 通年制に
合計		163 100.0	84 51.5	40 24.5	24 14.7	15 9.2
所 属	文	14 8.6	6 42.9	3 21.4	3 21.4	2 14.3
	経済	43 26.4	22 51.2	14 32.6	2 4.7	5 11.6
	法	23 14.1	11 47.8	6 26.1	5 21.7	1 4.3
	商	36 22.1	20 55.6	9 25.0	4 11.1	3 8.3
	医／薬	7 4.3	2 28.6	1 14.3	2 28.6	2 28.6
	理工	10 6.1	6 60.0	3 30.0	0 0.0	1 10.0
	総合政策／環境 情報／看護医療 体研	21 12.9	10 47.6	3 14.3	7 33.3	1 4.8
		9 5.5	7 77.8	1 11.1	1 11.1	0 0.0
	日吉	78 47.9	41 52.6	18 23.1	10 12.8	9 11.5
	三田	63 38.7	33 52.4	18 28.6	7 11.1	5 7.9
所 属 地 区	矢上	1 0.6	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0
	湘南藤沢	20 12.3	9 45.0	3 15.0	7 35.0	1 5.0

X. 研究と教育の関係、その他のバランスについて

問55. あなたは、研究と教育に、どの程度の割合の時間を割いていますか。(1つだけ)

回答 1. 研究8～9割、教育1～2割 2. 研究6～7割、教育3～4割
選択肢: 3. 研究5割、教育5割 4. 研究3～4割、教育6～7割 5. 研究1～2割、教育8～9割

		全体	1. 研究8～9、教育1～2	2. 研究6～7、教育3～4	3. 研究5、教育5	4. 研究3～4、教育6～7	5. 研究1～2、教育8～9
合計		200 100.0	14 7.0	48 24.0	56 28.0	57 28.5	25 12.5
所 属	文	16 8.0	1 6.3	8 50.0	2 12.5	5 31.3	0 0.0
	経済	48 24.0	7 14.6	10 20.8	13 27.1	13 27.1	5 10.4
	法	25 12.5	2 8.0	9 36.0	6 24.0	7 28.0	1 4.0
	商	38 19.0	2 5.3	9 23.7	12 31.6	9 23.7	6 15.8
	医／薬	7 3.5	0 0.0	0 0.0	1 14.3	4 57.1	2 28.6
	理工	13 6.5	0 0.0	2 15.4	2 15.4	7 53.8	2 15.4
	総合政策／環境 情報／看護医療 体研	44 22.0	2 4.5	10 22.7	17 38.6	9 20.5	6 13.6
		9 4.5	0 0.0	0 0.0	3 33.3	3 33.3	3 33.3
	日吉	86 43.0	4 4.7	11 12.8	17 19.8	39 45.3	15 17.4
	三田	68 34.0	8 11.8	27 39.7	21 30.9	8 11.8	4 5.9
所 属 地 区	矢上	2 1.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0
	湘南藤沢	43 21.5	2 4.7	10 23.3	16 37.2	9 20.9	6 14.0

問56. 大学常勤教員は本来、研究と教育に、どの程度の割合の時間を割くのが理想だと思いますか。
(1つだけ)

回答
選択肢: 1. 研究8～9割、教育1～2割 2. 研究6～7割、教育3～4割
3. 研究5割、教育5割 4. 研究3～4割、教育6～7割 5. 研究1～2割、教育8～9割

		全体	1. 研究8～9、教育1～2	2. 研究6～7、教育3～4	3. 研究5、教育5	4. 研究3～4、教育6～7	5. 研究1～2、教育8～9
合計		197 100.0	26 13.2	65 33.0	95 48.2	10 5.1	1 0.5
所属	文	16 8.1	2 12.5	9 56.3	3 18.8	2 12.5	0 0.0
	経済	47 23.9	7 14.9	14 29.8	24 51.1	1 2.1	1 2.1
	法	23 11.7	6 26.1	11 47.8	6 26.1	0 0.0	0 0.0
	商	38 19.3	6 15.8	11 28.9	20 52.6	1 2.6	0 0.0
	医／薬	7 3.6	0 0.0	0 0.0	7 100.0	0 0.0	0 0.0
	理工	12 6.1	0 0.0	4 33.3	7 58.3	1 8.3	0 0.0
	総合政策／環境 情報／看護医療 体研	45 22.8	5 11.1	14 31.1	23 51.1	3 6.7	0 0.0
		9 4.6	0 0.0	2 22.2	5 55.6	2 22.2	0 0.0
	日吉	85 43.1	3 3.5	25 29.4	52 61.2	5 5.9	0 0.0
	三田	66 33.5	18 27.3	26 39.4	19 28.8	2 3.0	1 1.5
所属地区	矢上	1 0.5	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0
	湘南藤沢	44 22.3	5 11.4	13 29.5	23 52.3	3 6.8	0 0.0

問57. あなたの所属学部・研究所の教育カリキュラムは概して妥当だと思いますか。(1つだけ)

回答
選択肢: 1. そう思う 2. どちらかといえばそう思う 3. どちらかといえばそう思わない 4. そう思わない

		全体	1. そう思う	2. どちらかといえばそう思う	3. どちらかといえばそう思わない	4. そう思わない
合計		199 100.0	40 20.1	107 53.8	35 17.6	17 8.5
所属	文	15 7.5	5 33.3	4 26.7	3 20.0	3 20.0
	経済	47 23.6	5 10.6	27 57.4	11 23.4	4 8.5
	法	25 12.6	4 16.0	12 48.0	6 24.0	3 12.0
	商	38 19.1	9 23.7	20 52.6	6 15.8	3 7.9
	医／薬	8 4.0	2 25.0	4 50.0	2 25.0	0 0.0
	理工	13 6.5	1 7.7	9 69.2	2 15.4	1 7.7
	総合政策／環境 情報／看護医療 体研	44 22.1	10 22.7	26 59.1	5 11.4	3 6.8
		9 4.5	4 44.4	5 55.6	0 0.0	0 0.0
	日吉	87 43.7	17 19.5	52 59.8	14 16.1	4 4.6
	三田	66 33.2	13 19.7	27 40.9	16 24.2	10 15.2
所属地区	矢上	2 1.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0
	湘南藤沢	43 21.6	10 23.3	25 58.1	5 11.6	3 7.0

問58. あなたの所属学部・研究所の教育カリキュラムは見直しが必要だと思いますか。(1つだけ)

回答
選択肢: 1. 大きな見直しが必要である 2. 一部見直しが必要である
3. 見直しはあまり必要ない 4. 見直しは必要でない 5. わからない

		全体	1. 大きな見直し	2. 一部見直し	3. あまり必要ではない	4. 見直し不要	5. わからない
合計		200 100.0	29 14.5	120 60.0	24 12.0	10 5.0	17 8.5
所属	文	16 8.0	4 25.0	8 50.0	0 0.0	2 12.5	2 12.5
	経済	47 23.5	8 17.0	29 61.7	4 8.5	2 4.3	4 8.5
	法	26 13.0	4 15.4	14 53.8	5 19.2	0 0.0	3 11.5
	商	38 19.0	5 13.2	19 50.0	8 21.1	2 5.3	4 10.5
	医／薬	7 3.5	0 0.0	6 85.7	0 0.0	1 14.3	0 0.0
	理工	13 6.5	2 15.4	9 69.2	2 15.4	0 0.0	0 0.0
	総合政策／環境 情報／看護医療 体研	44 22.0	6 13.6	27 61.4	5 11.4	2 4.5	4 9.1
		9 4.5	0 0.0	8 88.9	0 0.0	1 11.1	0 0.0
	日吉	87 43.5	7 8.0	56 64.4	11 12.6	5 5.7	8 9.2
	三田	67 33.5	16 23.9	36 53.7	7 10.4	3 4.5	5 7.5
所属地区	矢上	2 1.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0
	湘南藤沢	43 21.5	6 14.0	26 60.5	5 11.6	2 4.7	4 9.3

研究会メンバー

氏名	学部	分野	担当
伊藤 行雄	経済学部	独語	座長（～ 2011.3.）
木島 伸彦	商学部	心理学	幹事
木俣 章	法学部	仏語	
近藤 明彦	体育研究所	体育	
坂本 光	文学部	英語	
佐々木美帆	商学部	英語	幹事
佐藤 望	商学部	音楽学	幹事、座長（2011.4. ～）
村越貴代美	経済学部	中国語	
不破 有理	経済学部	英語	教養研究センター所長（2010.10. ～）
大出 敦	法学部	仏語	教養研究センター副所長（2010.10. ～）
吉田 恭子	文学部	英語	教養研究センター副所長（2010.10. ～）
種村 和史	商学部	中国語	教養研究センター副所長（2008.10 ～）
武藤 浩史	法学部	英語	教養研究センター副所長（～ 2010.9.）
横山 千晶	法学部	英語	教養研究センター所長（～ 2010.9.）
小磯 勝人	慶應義塾大学出版会		
乙子 智	慶應義塾大学出版会		

2010～2011 年度慶應義塾大学教養研究センター基盤研究報告書

慶應義塾大学の教育カリキュラム研究
——「2010 年度大学カリキュラムに関する教員アンケート調査」
の結果とそれに基づく提言——

2012 年 3 月 31 日発行
編集・発行 慶應義塾大学教養研究センター
代表者 不破有理

〒 223-8521 横浜市港北区日吉 4-1-1
TEL 045-563-1111 (代表)
Email lib-arts@adst.keio.ac.jp
<http://lib-arts.hc.keio.ac.jp/>

©2012 Keio Research Center for Liberal Arts
著作権者の許可なしに複製・転載を禁じます。